

# Ginkyo

www.kumamoto-hsu.ac.jp

銀杏学園通信 ぎんぎょう

48

2023 夏

Take Free

特集

SPECIAL FEATURE

●熊保大が誇る  
ナンバーワン&オンリーワンを  
探してみました

●包括連携協定

特集1/熊保大が誇るナンバーワン&オンリーワンを  
探してみました 2

特集2/包括連携協定 4

News&Topics 6

未来の巨匠 平澤 佳歩さん 8  
(医学検査学科卒業生)

新任教職員紹介 9

研究室紹介 10

令和5年度入試結果 11

学友会活動/クラブ・サークル活動 12

新入生インタビュー 13

令和4年度 著書論文歴 14

令和4年度 学会発表 18

決算・予算・事業報告・事業計画 22

国際交流/Library/基本理念/教育目標/将来ビジョン 27

令和6年度 入試概要/熊保大夢基金/オープンキャンパス 28

本学の取り組みの中からナンバーワン & オンリーワン

## 国内最初の衛生検査技師養成校

本学の医学検査学科の前身は、昭和34年に財団法人化学及血清療法研究所(化血研)が創立した化血研衛生検査技師養成所(熊本市京町)です。同養成所は、厚生省(当時)が指定し全国で初めて設置された6つの衛生検査技師養成所のひとつでもあります。

同35年に「熊本医学技術専門学校」と改称した後、同43年には銀杏学園短期大学(2年制)へと改組。同45年に専攻科を設置し、臨床検査技師の国家試験資格が与えられました。さらに、3年後には3年制へと移行し、校舎も京町から清水町に移転しました。

平成15年、4年制に改組転換する形で熊本保健科学大学が開学。保健科学部に衛生技術学科(現・医学検査学科)を配置し、キャンパスも現在の北区和泉町に移転しました。



写真左は、熊本医学技術専門学校(京町校舎)、同右は銀杏学園短期大学

## ユニークな共同研究講座



生物毒素・抗毒素共同研究講座で実験をする  
坂本智代美特命助教(写真左)

品質保証・精度管理学共同研究講座で打ち合わせをする  
蛭田修特命教授(写真中央)



本学には、財団法人化学及血清療法研究所と連携した2つのユニークな共同研究講座があります。

このうち、「生物毒素・抗毒素共同研究講座」は国内では本学のみという貴重な講座です。元国立感染症研究所室長の高橋元秀特命教授を中心に、破傷風菌が産生する毒素や患者治療に用いる抗毒素に関する研究のほか、これまでとは全く異なる抗毒素の製造法や測定法の開発も行っています。

一方、「品質保証・精度管理学共同研究講座」も、本学と東京理科大学にしかない注目の講座です。日本製薬団体連合会の前品質委員長・蛭田修氏を特命教授に招聘し、医薬品の品質保証と関連レギュレーション、国際規格ISO15189を柱として、アカデミックな立場から、系統的、総合的な研究を進め、医薬品企業や臨床検査機関が必要とする人材の育成を行っています。

# 開学以来 就職率 100%

令和4年度も就職率100%を達成しました。就職・実習支援課長として初めて経験する100%達成の瞬間を心から喜びました。そして、その裏でさまざまなドラマがあったことを思い出します。一人の就職のためにSG担任、就職委員、就職・実習支援課スタッフが連携を密にしながら、力を結集し事に当たります。開学以来100%を継続しているのは、卒業生自身の努力は勿論のこと、それを支える多くの力があるからです。(就職・実習支援課長 平川 文丈)

## 破傷風菌ハンター 志多田 千恵研究員

「熊本県内土壌の破傷風菌分布調査と遺伝学的解析」が研究テーマの志多田研究員。年間の破傷風患者の現状を踏まえ、県内で採取した土壌から分離同定した破傷風菌151株について様々な解析を行い、感染リスクを科学的に解明しようと取り組んでいます。世界で公開されている破傷風菌のゲノム情報はわずか46株と非常に少ない点に興味を持ち、国立感染症ゲノム解析研究センターの協力を得て、152株(1株は臨床株)をDNAデータバンクに登録。そのうち8株はコンプリートゲノムとして公開しています。ゲノム情報を新規提供したことで、今後破傷風菌の性状がさらに解明されることが見込まれます。



生物毒素・抗毒素共同研究講座に所属する志多田研究員

# オンリーワンを探してみました

だと思われる取り組みなどをいくつかご紹介します。

## スポーツリハビリテーションコースと健康・スポーツ教育研究センター

令和4年4月から本学リハビリテーション学科理学療法専攻にスポーツリハビリテーションコースを新設。「健康」「スポーツ」をキーワードに地域貢献できる人材、データ分析などの研究力を持った人材の育成を目指しています。

スポーツリハビリテーションコースの学生は、理学療法士を目指すための科目以外に、スポーツトレーニング論、スポーツデータサイエンス論、健康スポーツ心理学、アスリートサポート演習、スポーツコンディショニング演習等の実践的な科目を履修します。アスリートを対象とした演習はこのコースの魅力でもあります。

また、同時期に本学は、健康とスポーツに関する教育と研究を通して社会に貢献できる人材の育成に取り組むため、「健康・スポーツ教育研究センター」を設置しました。社会性の高い調査・研究・教育を積極的に推進しています。センターでは、さまざまな活動を通して教育及び研究活動の充実と向上を目指すとともに、実践の拠点として取り組んでいます。

具体的には、等速性筋力評価訓練機器・呼気ガス分析装置・3次元自動動作分析装置・筋電計・超音波などの計測機器と高度なトレーニング機器を併設したアスリートゾーンと一般のトレーニング機器を導入したフィットネスゾーンを設置することでアスリートから高齢者・子どもまでさまざまな世代の持続的な健康日本の活性化を目指しています。



健康・スポーツ教育研究センターの取り組みの一つである水上村でのシニアアスリート支援

同センターの取り組みの一つであるくまもとワールドアスリート支援



## 大学施設におけるPCR検査の受託

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学生に少しでも安心、安全な教育環境を再構築し、学外実習先へ安心して送り出すことを目的として、PCR検査室を立ち上げました。そのPCR検査室の技術を少しでも地域に貢献できないかということで、新型コロナウイルス感染症に係る病原体核酸検査のみに限る臨時的衛生検査所として行政登録を行いました。行政登録を行い臨床検体の取り扱いが可能となりました。熊本市医師会や熊本市等と提携し、熊本市内、県内の検査を請け負うことにより、少しでも熊本県内の新型コロナウイルスの感染拡大抑制を目的として、PCR検査室は現在運営しています。



全自動PCR装置を操作する山本隆敏講師

## 学内におけるクリーンエネルギーの生産量(エコキャンパス)

本学が平成15年に銀杏学園短期大学から4年制大学の「熊本保健科学大学」に改組され、今年でちょうど20年になります。改組と同時にここ西里の田園地帯に建てられたのが円形の本館(現1号館)でした。本館建設のコンセプトは「エコキャンパス」。それをさらに充実させたのが直径132メートルの屋根いっぱいに張られた太陽光パネルです。平成22年の設置以来、2672基のパネルは本学のシンボリックな施設として稼働し続けています。

本学の太陽光発電システムは、当時の小野友道学長の発案で国の補助を受けて設置されました。発電容量480キロワット、年間発電量49万キロワット時は、一般家庭約330世帯が昼間1年間に使用する電力量に相当し、約270トンのCO2排出を抑制していることになります。



円形の1号館屋根に設置された太陽光パネル

## 食を通じ 健康考える

株式会社明治

本学と大手食品メーカー株式会社明治との包括連携協定が昨年12月23日(金)に結ばれました。今後、健康・スポーツ・食に関しお互いの研究成果を生かし、スポーツ合宿での最適な食事の開発やよりよい健康寿命の実現などを目指します。

東京の明治本社で行われた調印式では、松田克也・明治社長が「熊本県内を中心に生活者に新しい価値を届けていきたい」、木下統晴理事長が「明治の技術や知見をもとに、知識を持った人材を多く育てていきたい」とあいさつし、協定書に調印しました。これに先立ち、健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長と明治マーケティングソリューション部の大前恵専任課長(管理栄養士)が今夏、合同で行ったスポーツ合宿(水上村)での栄養セミナーの成果などを報告しました。



くまモンと共に記念撮影する木下理事長(左)と松田社長

## 女子バスケット部の強化へ

鶴屋百貨店

本学と鶴屋百貨店は1月23日(月)、女子バスケットボール部の競技力向上や従業員の健康増進などを柱とした包括連携協定を締結しました。心身両面にわたる科学的データをチーム強化と選手の障害防止に生かし、同時に従業員の健康増進にもつなげていくことになります。また、さまざまな実践を通じ、本学学生が経験を積む機会を設けていきます。

本学1号館会議室で行われた調印式では、木下統晴理事長が「本学のヘルスサイエンスが全国の頂点を目指す女子バスケットボール部の競技力向上とスポーツ障害防止に貢献できればうれしい」、同百貨店の久我彰登会長が「健康とスポーツの幅広い取り組みを私たちに広げていただけることは願ってもないこと。また、健康への取り組みは、接客サービスの向上にもつながります」とあいさつ。竹屋元裕学長らが見守る中、協定書に調印しました。

本学が、単独のスポーツチームに関する包括連携協定を結ぶのは初めてです。



包括連携協定を締結した後、記念撮影をする関係者

## 競技力向上と障害予防

オムロンハンドボール部

ハンドボール女子日本リーグの強豪オムロンと本学が2月2日(木)、選手の競技力向上やけが予防、教育・研究等に関する包括連携協定を締結しました。本学がスポーツ選手の競技力向上や障害予防をメインとした包括連携協定を結ぶのは、1月の鶴屋百貨店(女子バスケットボール部)に続き2件目です。

調印式は、チームが本拠地とする山鹿市のオムロン鹿陽センタでありました。ハンドボール部の勝田祥子GMが「連携の提案に感謝します。今後も連携を強固なものとするためにご協力をお願いします」、竹屋元裕学長が「協定を通じお互いにWin Winの関係構築していきたい」とあいさつし、木下統晴理事長、牧圭一郎オムロンリレーアンドデバイス社長、水野裕紀監督ら関係者が見守る中、それぞれ協定書に署名しました。



包括連携協定を締結した後、記念撮影をする関係者

## 地域の健康 手携え守る

阿蘇市・阿蘇中央高校

本学と阿蘇市、阿蘇中央高校が、健康寿命の延伸に向けた包括連携協定を2月16日(木)に締結しました。今後、同市内の高齢者を対象に定期的な体力測定などで得られたデータを分析し、最適な取り組みを模索していきます。各種計測やデータ分析には本学学生だけでなく高校生も参加。阿蘇地域の健康増進に貢献する人材育成もめざします。

本学が自治体、高校と同時に包括連携協定を結ぶのは初めてです。高校側から本学に連携の申し出があり、阿蘇市、阿蘇中央高校、本学との間で昨年7月から協議を続けてきました。

締結式は、阿蘇市の一の宮保健センターであり、本学からは木下統晴理事長、竹屋元裕学長、榎原真二副学長ら8人が出席しました。佐藤義興市長、木下理事長、酒井一匡校長が「3者が連携しての健康寿命延伸へのチャレンジは有意義な取り組み。学生や生徒の学びの場、人材育成の場としても期待します」などとあいさつし、協定書に調印しました。



締結後、記念撮影する右から生徒代表の嶋田聖也さん、木下理事長、佐藤市長、酒井校長、生徒代表の松田早生さん

熊本保健科学大学はこれまで熊本県球磨郡水上村や熊本県合志市などと連携協定を結んできました。新たに令和4年12月～令和5年5月までに、株式会社明治、鶴屋百貨店、オムロン、阿蘇市・阿蘇中央高校、県高等学校体育学科・コース連絡協議会、天草市、スペシャルオリンピックス日本・熊本、福岡脳神経外科の8つの団体と連携協定を締結。「トップアスリートから高齢者まで」、「スポーツ」、「健康」をキーワードにしてスポーツ医科学により幅広い問題に対応します。

## 高大連携し 人材育てる

### 県高等学校体育学科・コース連絡協議会

熊本県内の体育コースを持つ県立、私立高校8校でつくる県高等学校体育学科・コース連絡協議会(会長:栗谷雅之・熊本西高校長)と本学の間で3月16日(木)、包括連携協定が結ばれました。同協議会が本学と連携協定を結ぶのは初めてです。

締結式は本学3108M講義室であり、加盟校関係者や県教委関係者など計30人が出席しました。竹屋元裕学長が「本学健康・スポーツ教育研究センターのいろいろな活動に(生徒が)参加することで授業に生かしてほしい」、栗谷会長が「高校教育の限界を超えた高大連携により、生徒の育成ができると期待しています」などとあいさつし、協定書に署名しました。



協定締結式後、協定書を手にする竹屋学長、栗谷会長を中心に記念撮影する関係者

## スポーツ通し 健康増進

### 天草市

子どもたちの競技力向上や健康増進、市民の健康づくりなどを目指す包括連携協定が5月11日(木)に天草市役所で、本学と天草市の間で結ばれました。本学が持つスポーツ医科学における分析体制や保健医療の分野で同市のスポーツ、健康・保健施策を後押ししていきます。

同市は昨年4月、市スポーツコミッションを立ち上げ、競技力の向上、健康増進に向けた環境づくりを進める一方で、スポーツを通じた交流人口の増加による地域活性化を目指しています。今年7月には同コミッションの拠点施設となる市陸上競技場の供用も開始されます。

同市役所であった締結式には、本学から木下統晴理事長、竹屋元裕学長ら7人が出席。馬場昭治市長と木下理事長が協定書に署名しました。



調印式後、記念撮影する天草市と本学の関係者

## 共生社会の実現目指す

### スペシャルオリンピックス日本・熊本

スポーツを通じて知的障がい者の社会参加と自立を目指すスペシャルオリンピックス日本・熊本(SON・熊本)と本学が5月16日(火)、多様な人々が生き活きと暮らせる共生社会の実現に向けて包括連携協定を結びました。本学が障がい者スポーツの団体と連携協定を結ぶのは初めてです。

締結式は本学1204・1205会議室であり、関係者計15人が出席。竹屋元裕学長と潮谷義子SON・熊本理事長が協定書に署名しました。

これに先立ち、竹屋元裕学長が「将来、医療人を目指す学生たちに、『共生社会』がどういふものか、非常に近くで学ぶ大変ありがたい機会をいただいた。この協定がお互いの組織にとり実り多いものになることを期待します」とあいさつ。

SON・熊本の潮谷理事長は「SOは、創立の時から『誰一人取り残さない』活動を続けていくことが大きな目標になっております。障がい者に対する特別な取り組みの中で、存在感を發揮できるような体制を作っていただけではないかという喜びの中で包括協定を結ばせていただきたいと考えております」などと述べました。



調印式後、記念撮影するSON・熊本と本学の関係者

## 脳卒中看護 充実に向け

### 福岡脳神経外科病院

脳卒中看護分野の認定看護師教育の充実に向けた包括連携協定を、本学と医療法人光川会福岡脳神経外科病院(福岡市南区)が締結しました。同病院を「福岡キャンパス」と位置づけ、同病院所属の認定看護師がクロスアポイント制度を利用して教員となり、現地で認定看護師教育課程脳卒中看護分野のカリキュラムの主要部分となる対面授業や臨床実習を担うこととなります。

締結式は5月27日(土)、本学会議室であり、関係者計11人が出席。川口辰哉キャリア教育研修センター長が「福岡キャンパス構想」と名付けた協定の内容を説明し、同病院の風川清理事長と竹屋元裕学長が協定書に署名しました。引き続き、風川理事長が「スタッフ丸となり、(研修生が)元の医療機関で中核として活躍できるよう力を尽くしていきます」、竹屋学長が「この協定が実り多いものとなるよう、本学でも努力していきます」と、それぞれあいさつしました。



締結式後、記念撮影する福岡脳神経外科病院と本学の関係者

# News & Topics

## 南部教授 (医学検査学科) に福見秀雄賞 臨床検査・衛生検査領域で指導的役割

臨床検査や衛生検査の領域で長年貢献してきた人をたたえる公益財団法人黒住医学研究振興財団の「第42回福見秀雄賞」に、本学医学検査学科の南部雅美教授＝写真＝が選ばれました。6月に東京で贈呈式が行われました。本学からの同賞受賞は4人目です。

同賞は、臨床検査や衛生検査領域で指導的な役割を果たし、技術の開発・向上や人材育成等で指導的な役割を果たしてきた実務者(技師)に毎年贈られるものです。過去に本学からは第23回(2004年)に梅橋豊藏氏、第27回(2008年)に廣瀬英治氏、第36回(2017年)に池田勝義氏が受賞しています。

南部教授は昨年、国際細胞学会の細胞検査士特別功労賞も受賞しています。今回の受賞について南部教授は「国際細胞学会での受賞、それから今回の福見秀雄賞と、栄誉な賞の受賞者に選ばれ、支えてくださった皆様への感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びを語りました。



## 保健師養成に向け「専攻科」開設へ 大卒者対象に25年度から

令和4年度第3回理事会が昨年11月30日(水)に開かれ、7年度に、4年制大学の卒業生を対象とした保健師養成のための「専攻科」を設けることを正式決定しました。

昨今、少子高齢化や児童虐待、新型コロナウイルス感染症など、社会における問題の多様化、それに伴う患者像の複雑化が進み、これらに対応できる看護師、保健師の養成がより一層求められています。このため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則が一部改正され、看護師教育、保健師教育に求められる単位数が増加しました。

こうした社会の要請に応える質の高い看護人材の養成及び保健師の輩出を目指し、本学看護学科は4年度入学生より看護学科での看護師・保健師の統合カリキュラムを廃止し、看護師課程のみの教育体制となりました。同時に7年度に新たな保健師課程を開設することとし、今回の理事会で大卒者を対象とした1年制の「専攻科」(定員20名)とすることが決定しました。看護師養成課程と保健師養成課程を分離することで、カリキュラムの過密化が避けられ、看護師養成、保健師養成共に高度な専門指導が可能になります。



保健師専攻科を担当する左から岡順子教授、戸渡洋子准教授、荒木善光講師

## 高品質の医薬品を確実に製造 グループ討議通じシステム理解

「医薬品品質システムの導入、構築及び運用に関するワークショップ」が1月30日(月)、1501M講義室で開催され、39人が参加、Zoomでも約170人が聴講しました。

本ワークショップは、高品質の医薬品をより確実に製造するための仕組みである医薬品品質システムに対する理解を深め、適切な運用を実現できる人材を育成することを狙いとしており、厚生労働科学研究班および熊本県薬務衛生課の協力で実現しました。

この日は、製薬企業で医薬品の品質保証業務を担っている実務担当者を対象にディスカッションを中心に進行了ました。午前の部では、PMDA医薬品品質管理部の高屋敷均氏が「改正GMP省令の概要」、京都府健康福祉部薬務課の田中良一氏が「マネジメントレビューのあるべき姿」、熊本県薬務衛生課の高濱信利氏が「熊本県におけるGMP関連の指導について」と題してそれぞれ講演しました。

午後の部では、参加者を8グループに分け、厚生労働科学研究班のメンバーがサポートしながら活発なグループディスカッションが行われました。最後に各グループが討議内容を発表し、参加者で共有して自社の改善に活用することを確認。研究代表者の東京理科大学・櫻井信豪教授(本学客員教授)の講評で終了しました。



グループディスカッションに臨む参加者たち

## 令和4年度 卒業式・修了式 決意胸に 372人巣立つ

令和4年度の卒業式・修了式が3月10日(金)、アリーナであり、学部、大学院、別科等で計372人が巣立っていました。新型コロナウイルス感染防止のため、昨年に続き学科ごとの開催となりました。



竹屋学長から学位証を受け取る本木麗紗さん(医学検査学科)

## 令和5年度入学式 未来志向の医療人目指せ

令和5(2023)年度の入学式が4月2日(日)、アリーナで行われ、学部生401人、大学院保健科学研究科14人、助産別科21人、認定看護師教育課程認知看護分野12人の計448人が大学生活のスタートを切りました。



看護学科と助産別科の入学式会場

## 学生47人 心電図検定3、4級合格



医学検査学科の原口実紗講師が、1月14、15日に実施された日本不整脈心電学会の心電図検定1級に合格。さらに受検を呼びかけた学生47人(3級4人、4級43人)も合格しました。

合格証書とバッジを手にする原口講師(前列左から4人目)と学生たち。最後列左から2人目は飯伏教授

## 水泳で活躍 坂上さんを学部長表彰

看護学科2年の坂上由夏さん=写真中央=が4月12日(水)1300L講義室で実施された学部長表彰で表彰されました。坂上さんは入学後より数多くの競泳大会にエントリーし、好成績を残したため、昨年8月に開催された日本学生選手権への出場を果たしました。



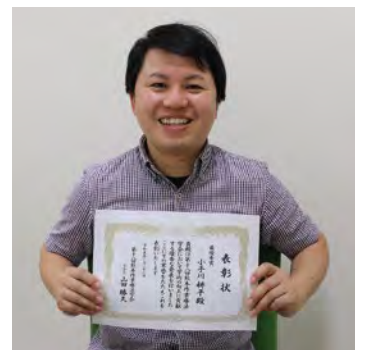
## UXプロジェクト 学生らが研究成果を発表

ライフサイエンスをはじめとするさまざまな研究開発を行うUXプロジェクトの成果を発表する「UX Project DEMO DAY 2023」が3月16日(木)、熊本城ホールで開催され、本学からは松尾健志郎さん(大学院リハビリテーション領域1年)=写真、学生部門では、井田巧さん(リハビリテーション学科理学療法学専攻2年)らが研究などを披露しました。



## 熊本作業療法学会 小手川講師、最優秀賞

1月22日(日)に開催された第18回熊本作業療法学会でリハビリテーション学科生活機能療法学専攻の小手川耕平講師=写真=が25の一般演題の中から最優秀賞に選ばれました。学会はオンラインで開催され、小手川講師の演題は「自閉スペクトラム症児の特性に対する保護者とセラピストの捉え方の違い」でした。



## 日本言語聴覚士協会九州地区集会 平江さん(言語聴覚学専攻・実習支援教員) 最優秀演題賞

1月下旬に開催された日本言語聴覚士協会の九州地区集会で、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の実習支援教員、平江満充帆さん=写真=が、発表41演題の中から最優秀演題賞に選ばれました。

集会は1月28、29日の両日、オンラインで開催。平江さんの演題は「超音波検査による嚥下関連筋評価の画像解析の信頼性について」でした。



## 大学院2年荒尾さん 特別表彰

大学院臨床検査領域2年荒尾ほほみさん=写真中央=が4月18日(火)、本学の特別表彰を受けました。荒尾さんは昨年11月に開催された第60回日本人工臓器学会大会の萌芽研究ポスターセッションで「体外式膜型人工肺(ECMO)内に生ずる血栓の原因を探る～模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析～」と題した発表を行い、「優秀賞」を受賞しました。



熊保大卒業生を紹介します

世界に羽ばたけ!

# 未来の巨匠

Vol. 4

平澤 佳歩さん

2022年度 医学検査学科卒業



## 日々の学びとボランティア活動で成長 夢は「すべての人に寄り添える臨床検査技師」

### 夢を叶えるために熊保大へ

私は幼い頃から「将来は医療系の仕事に就きたい」と思っていました。高校生になって具体的な職業について調べた時に臨床検査技師という仕事を見つけ、顕微鏡を使った理科の実験が好きだったことから臨床検査技師を目指すことに。熊保大で臨床検査技師になるための勉強ができると知りました。受験前に参加したオープンキャンパスでは超音波検査を体験してさらに興味が湧き、「進学するならココしかない!」と志望しました。

### 学びたい学生を応援する充実の環境

熊保大は学ぶ意欲を持つ人にとって素晴らしい環境だと思います。理由の一つが、設備の充実ぶり。実際の医療現場で使われている機器を備えており、医学検査学科には学生の人数分の顕微鏡もあります。それから先生との距離の近さも魅力です。例えば、「オフィス・アワー」という時間帯が設けてあり、その時間は必ず先生が研究室に在室されているので勉強で分からないところを質問に行けます。また、少人数の学生と教員とで構成される「スモールグループ担任制度」というのもあり、そのおかげで学びをより深めることができました。

### サークル活動で成長できた!

サークル活動も貴重な経験になりました。ボランティ

アサークル[Lovers]に所属し、1年次はリレー・フォー・ライフ、野田かつひこさん「命のコンサート」、日本ALS協会熊本支部通常総会、熊本市身体障害者福祉協会主催の日帰り旅行での車いす介助などのサポートや、脊髄小脳変性症(SCD)・多系統萎縮症(MSA)友の会のイベントのサポートなどを行いました。2年次以降は新型コロナウイルス感染症の影響で対面での活動は難しくなりましたが、リモートを用いるなど工夫して活動を継続。4年間の活動を通して、より多くの視点を持つようになったと感じています。最初は障がいのある方々を「助けてあげたい」という気持ちで活動していましたが、そういう目線ではなく、視点を共有すること、寄り添うことが必要だと学びました。

### すべての人に寄り添える臨床検査技師に

今春から県内の病院で働き始めます。今は臨床検査技師としてもっと勉強できる楽しさと、社会人になる不安が入り混じった気持ちです。私は熊保大に入学した時に「患者様だけでなく医療スタッフとも円滑なコミュニケーションがとれる臨床検査技師を目指す」ことを目標にしました。これからもサークル活動で学んだコミュニケーション力も生かして、関わるすべての方に優しく寄り添える臨床検査技師を目指します。

※3月22日(水)にインタビューさせていただきました。

あなたのモットーは?

「笑顔を忘れない」

頼られる人になるためには、声をかけやすい人になることが第一歩だと思います。笑顔は、そのきっかけになると思うので大事にしたいです。



クリスマス会でトーンチャイムを演奏するLoversメンバー



野田かつひこさん「いのちのコンサート」終了後に記念写真を撮る関係者



ミニ交流会で感謝状を受け取るLoversの4年生



# 新任教職員紹介

ようこそ、熊本保健科学大学へ

**看護学科**



**教授**  
**岡 順子**

本年4月より看護学科公衆衛生看護学領域に着任いたしました。これまで、熊本県庁で災害医療や医療人材確保等の医療政策、生活習慣病対策に携わってきた経験やネットワークを活かし、本学の発展に寄与できるよう取組んで参りますので、よろしくお願いいたします。


**看護学科**



**助教**  
**伊山 聡子**

本年度より看護学科成人看護学慢性期領域に着任いたしました。主に成人看護学実習IIを担当いたします。臨床実習を通して学生の学びが深まるよう支援する共に教員として成長できるよう邁進してまいります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。


**看護学科**



**助教**  
**早木 幸江**

精神科看護師としての臨床経験を活かしながら、精神科看護の奥深さや面白さを伝えていけたらと考えております。初めて尽くしで不安もありますが、臨床で培った諦めない根性で頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**リハビリテーション学科  
理学療法学専攻**



**教務嘱託**  
**嶋村 剛史**

理学療法学専攻に着任いたしました。これまで加速度センサなどの簡便な計測機器を用いて、歩行や立ち上がり動作に関する研究に取り組んできました。新たな環境でさらなる社会貢献ができるように教育・研究を進めて参ります。よろしくお願いいたします。

**リハビリテーション学科  
生活機能療法学専攻**



**准教授**  
**仙波 梨沙**

生活機能療法学専攻に着任いたしました。本学では子どものリハビリテーションや作業療法について担当しております。今後も教育・研究・社会貢献のバランスをとりながら、皆様のお役に立てるよう活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**助産別科**



**准教授**  
**浅尾 由美**

本年4月より助産別科に着任致しました。これまで熊本大学病院で周産期関連、看護管理に携わっておりました。臨床での現状を伝えつつ助産師のやりがいと責任、臨床実習での学びが根拠と関連づけられますよう関わっていききたいと思っております。よろしくお願い致します。

**健康・スポーツ  
教育研究センター**



**センター長・特任教授**  
**荒木 栄一**

3月末に熊本大学退職後、本学の健康・スポーツ教育研究センター長と特任教授を拝命しました。糖尿病の診療と研究を専門とし、インスリンがどのような機序で血糖値を制御するのかを解析しています。本学の健康に関する教育と研究に尽力したいと思います。

**事務職員**



**猿樂 南海**

事務職員として入職致しました猿樂南海と申します。3月までは、熊本大学法学部の学生でした。大学祭実行委員会や新入生サポートセンターで活動をしておりまして、本学でも学生生活をサポートできるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

**事務職員**



**中野 啓史**

本年4月1日付けで、事務職員として入職致しました。昨年度まで熊本市役所で事務職として勤務しておりました。新たな職種への挑戦となり不慣れた部分もありますが、本学に貢献できるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

**事務職員**



**中松 洋子**

2月より事務職員として入職致しました。昨年度まで他大学の人事課に勤めておりました。慣れないことも多くご迷惑をおかけするかと思いますが、学生さんや先生方により良い環境で勉学・研究に取り組んでいただけるよう尽力して参ります。よろしくお願い致します。



## 学校法人銀杏学園理事・幹事・評議員一覧

(2023年8月1日時点)

理事	幹事	監事	評議員	評議員	
理事長 木下 統晴	銀杏学園 理事長	安高 純一郎	熊本保健科学大学 前内部監査室長	福吉 葉子	熊本県臨床検査技師会 副会長
理事 竹屋 元裕	熊本保健科学大学 学長	評議員 竹屋 元裕	熊本保健科学大学 学長	本 尚美	熊本県看護協会 会長
福田 稠	熊本県医師会 会長	植原 真二	熊本保健科学大学 副学長	坂崎 浩一	熊本県理学療法士協会 会長
植原 真二	熊本保健科学大学 副学長	古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長	内田 正剛	前熊本県作業療法士会 会長
渡辺 雄一	熊本保健科学大学 学部長	渡辺 雄一	熊本保健科学大学 学部長	池田 健吾	熊本県言語聴覚士会 副会長
河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長	河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長	馬場 秀夫	熊本大学病院 院長
榊田 浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長	勝木 康子	熊本保健科学大学 事務局次長	平田 稔彦	熊本赤十字病院 院長
内野 誠	くまもと南部広域病院 院長	瀧口 巖	同窓会連合会 会長	米満 弘一郎	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
副島 秀久	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 熊本県済生会 支部長	原田 精一	医学検査学科同窓会 会長	毛利 浩一	株式会社フードパル熊本 代表取締役
高橋 毅	国立病院機構 熊本医療センター 院長	中野 博之	看護学科同窓会 会長	杉光 定則	熊本バスケットボール(株) 取締役
猪股 裕紀洋	熊本大学病院 元院長 熊本労災病院 院長	坂本 智晟	リハ学科同窓会 会長	馬場 啓	株式会社SEP 代表取締役
永里 敏秋	KMバイオロジクス株式会社 代表取締役社長	池田 夕希	助産別科同窓会 会長	榊田 浩	学校法人銀杏学園 顧問弁護士
古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長	福田 稠	熊本県医師会 会長	内野 誠	くまもと南部広域病院 院長
監事 林田 喜一	税理士	園田 寛	熊本市医師会 会長	越猪 浩樹	壺深塾水前寺校 校長 (元熊本高校 校長)

# 研究室紹介

Laboratory Report



## 研究テーマ

### 地域看護学

大学院  
保健科学研究科  
保健科学専攻

### 竹熊 千晶 教授



地域のなかで人びとの死生観や障害観が重度の要介護者やその家族にどのような影響を及ぼすかを研究してきました。人口は減少し医療は高度化、長寿化した日本において、わずかな健康寿命の延伸はみられるものの今後の介護の長期化と重度化は避けられない状態です。このような超少子高齢多死社会の中で最終的な看取りの場所の8割は病院となっており、人びとがどこで、誰にケアを受け、療養の場所を過ぎていくかは、喫緊の課題です。地域の看護実践の場で、その看護の意味を探求し言語化していくことをとおして、看護の社会的意義を再構築しこれからの看護の展望を考えていきます。

## 研究テーマ

### 感染看護学 成人慢性期看護学

大学院  
保健科学研究科  
保健科学専攻

### 森 みずえ 特任教授



感染症は健康・生命活動に大きく影響するだけでなく、人々の生活の質に重大な損失をもたらします。その損失やリスクを低減する為にエビデンスを基に病院・在宅・施設の易感染者・感染症患者の看護において探求すべき課題を明らかにし、科学的・論理的手法で研究します。また、慢性疾患の増加に伴い深刻な健康問題を抱える成人の健康管理と生活の質について、病とともに生きる視点から研究を行います。これまでに、標準予防策(Standard Precautions)の遵守行動、Infection Control Nurseの役割、感染管理、口腔ケア教育、ワクチン接種行動と副反応に関する研究など、看護の質・生活の質を高めるテーマを探求しています。

## 院生にきく!

## 研究室 Q&A

### Q. どんな研究をされていますか?

A. 看護師は感情労働の側面もあるといわれています。ケアを通して患者さんに対する感情も変化します。看護師自身が感情をコントロールできなければ、患者さんに対する感情をコントロールできずケアの質を低下させることもあります。大学院では看護師自身の感情コントロールを研究課題に、臨床にフィードバックできるよう研究を深めていきたいと考えています。

### Q. 所属している大学院はどんなところですか?

A. 学校を卒業してから数年になりますが、再び勉強をしたいと思い大学院に入学しました。しかし学業と仕事の両立、勉強についていけるかなど様々な不安がありましたが、大学院での生活が実際に始めると、各先生方や学校の職員の方など対応が親切丁寧であり、また同期の院生たちも私と同じような境遇なので分かり合えることができ、不安はすぐに解消することができました。さらに明るい雰囲気のみなかでミーティングが行われ研究に取り組みやすい環境にあります。授業も対面やオンラインなど選択肢があり、仕事にもあまり支障なく学ぶことができます。研究・学ぶ場としてとても良い学校だと思います。

# 令和5年度 入試結果

学科	入試区分		募集人員	志願者	区分	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率	
医学検査学科	総合型選抜	エントリー	5	16		15				
		出願 ※1		15	タイプA	5	5	3.0	3.0	
				(15)	タイプB	3	3	—	—	
	学校推薦型選抜 (指定校)		20	15		15	15	—	—	
	学校推薦型選抜 (公募)		25	40		32	32	1.6	1.3	
	一般選抜		40	117		97	63	2.9	1.2	
	共通テスト利用 (前期)		5	107		65	4	21.4	1.6	
共通テスト利用 (後期)		5	7		5	3	1.4	1.4		
学科合計			100	301		222	125	3.0	1.4	
看護学科	総合型選抜	エントリー	5	31		15				
		出願 ※1		15	タイプA	5	5	3.0	3.0	
				(14)	タイプB	5	5	—	—	
	学校推薦型選抜 (指定校)		15	12		12	12	—	—	
	学校推薦型選抜 (公募)		30	69		33	33	2.3	2.1	
	一般選抜		40	165		124	66	4.1	1.3	
	共通テスト利用 (前期)		5	95		43	5	19.0	2.2	
共通テスト利用 (後期)		5	5		2	1	1.0	2.5		
学科合計			100	361		224	127	3.6	1.6	
リハビリテーション学科	理学療法専攻	総合型選抜	4	エントリー		13				
				出願 ※1	12	タイプA	4	4	3.0	3.0
					(12)	タイプB	4	4	—	—
		学校推薦型選抜 (指定校)		12	12		12	12	—	—
		学校推薦型選抜 (公募)		14	42		18	18	3.0	2.3
		一般選抜		23	89		47	35	3.9	1.9
		共通テスト利用 (前期)		4	60		18	2	15.0	3.3
		共通テスト利用 (後期)		3	9		2	1	3.0	4.5
	社会人		若干名	0		0	0	—	—	
	専攻合計			60	224		105	76	3.7	2.1
	生活機能療法専攻	総合型選抜	3	エントリー		9				
				出願 ※1	9	タイプA	3	3	3.0	3.0
					(9)	タイプB	2	2	—	—
		学校推薦型選抜 (指定校)		8	6		6	6	—	—
		学校推薦型選抜 (公募)		9	14		12	12	1.6	1.2
		一般選抜		15	22		16	10	1.5	1.4
		共通テスト利用 (前期)		3	30		30	5	10.0	1.0
		共通テスト利用 (後期)		2	0		0	0	—	—
	社会人		若干名	1		1	1	—	—	
	専攻合計			40	82		70	39	2.1	1.2
言語聴覚専攻	総合型選抜	3	エントリー		7					
			出願 ※1	7	タイプA	3	3	2.3	2.3	
				(5)	タイプB	0	0	—	—	
	学校推薦型選抜 (指定校)		8	5		5	5	—	—	
	学校推薦型選抜 (公募)		9	15		13	13	1.7	1.2	
	一般選抜		15	22		18	12	1.5	1.2	
	共通テスト利用 (前期)		3	32		22	1	10.7	1.5	
	共通テスト利用 (後期)		2	0		0	0	—	—	
社会人		若干名	0		0	0	—	—		
専攻合計			40	81		61	34	2.0	1.3	
学科合計			140	387		236	149	2.8	1.6	
保健科学部合計			340	1,049		682	401	3.1	1.5	

※専攻合計・学科合計・保健科学部合計の人数に総合型選抜のエントリー者数は含まれません。  
 ※1 ( ) 内の数はタイプB (奨学金なし) 希望者の人数です。

# 令和5年度 学生在籍者数

5月1日現在

	保健科学部							助産別科	大学院保健科学研究科	キャリア教育研修センター			大学合計
	医学検査学科	看護学科	リハビリテーション学科			学部合計	特定行為研修課程			認定看護師教育課程 (脳卒中/看護分野)	認定看護師教育課程 (認知症/看護分野)		
			理学療法専攻	生活機能療法専攻	言語聴覚専攻								
1年	134	127	81	40	34	155	416	21	14	0	1	12	464
2年	121	123	63	43	26	132	376		14				390
3年	106	103	43	36	44	123	332						332
4年	111	105	43	50	41	134	350						350
計	472	458	230	169	145	544	1,474	21	28	0	1	12	1,536

# 学友会活動

## 球技大会

リハビリテーション学科生活機能療法学専攻3年 永野 巴菜さん

6月17日(土)スポーツ熊本にてボウリングを競技とした球技大会を開催しました。昨年までコロナ禍の影響もあり、開催を中止しておりましたが、今年からはほとんど全ての行事が再開することになり、それに伴い球技大会も開催する運びとなりました。競技は午前の部、午後の部を合計して64名にご参加頂きました。1チーム4名で2ゲーム行い、ハンデとして女子1名につき30点プラスした合計スコアで競いました。1位から3位までには賞金が用意されており、皆、楽しみながら賞金を目指して競技に臨んでいました。チーム編成は同学年、同学科のチームから他学科、男女混合のチームまで様々ありました。チームの中には大会前から練習を行い、上位を狙うチームや、思い出づくりとして参加するチームなど、それぞれの楽しみ方をしており、大会中も終始賑やかで活気で溢れていました。運営は新体制となった学友会生が行い、会場のスタッフさんと連携をとりながらスムーズに進めることが出来ました。今回の大会にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今後も学友会生一同、学生の大学生活が豊かで笑顔溢れるものとなりますよう努めていきたいと思います。



## クラブ・サークル活動

### ソフトテニスクラブ

看護学科2年 鈴木 美羽さん

現在部員42名で活動しています。主に水曜日と金曜日に活動を行っていて、練習内容は主にラリーとゲーム練習です。ラリーを繰り返すことでコントロールを磨き、ゲーム練習を数多く行う事で戦術を身につけています。学年関係無く楽しく練習を行うことで良い関係を築くことができています。ここ数年間は新型コロナウイルスの影響でなかなか思うように活動が出来ないことが続きましたが、コロナが5類に移行されたことで積極的に活動する事ができ、今年は多くの新1年生も入ってくれました。今後のソフトテニスクラブの目標は2つあります。1つ目は、練習を通してコミュニケーションをとる事で部員どうしの繋がりを深め勉強や試験、就職等、何でも相談できる関係性を築く事です。2つ目は、コロナの影響で参加することが出来なかった大会に出場するために、みんなで試合に向けて練習に励み、念願の大会に出場する事です。



### 韓国文化研究クラブ

看護学科2年 酒村 遥奈さん



韓国文化研究クラブは、現在約60人で活動しています。私たちのサークルは韓国が好き・興味がある人、韓国のアイドル・俳優が好きの人、韓国語を勉強したい人など様々な人が所属しています。普段は韓国語の勉強会、韓国料理作り、韓服体験、伝統遊び体験などを行っています。サークルの活動日や活動内容は部員の希望を取って決定しています。以前は月に1回程度だった韓国語の勉強会は部員の希望により、現在は週に1回、火曜日18時～行っています!顧問の申先生から韓国の歴史や、本場の韓国料理を教えてもらい、毎週楽しく活動しています。韓服体験、伝統遊び体験では外部から先生をお招きし、韓国の歴史や文化を学びながら体験ができるので、なかなか経験することができない貴重な体験ができます!7月からの交換研修に向けて私たちなりのおもてなしをしようと準備を進めています。学年・性別に関係なく自分が好きなことに取り組みやすい楽しいサークルです!

# 新入生インタビュー

今年度の新入生に入学しての感想・  
これからの抱負・楽しみにしている事etc…インタビュー!

## 医学検査学科



坂崎 礼菜さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

入学当初は、新しい環境の中で不安が沢山ありましたが、今は友達もでき、楽しい学校生活を送っています。また、専門性の高い授業や同じ夢を持った仲間がいるので切磋琢磨して勉強することができて、毎日が充実しています。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

様々なボランティア活動に参加することです。大学生の時にしかなかなか出来ない活動もあると思うので積極的に参加して、沢山のひとと交流することで人間力を高め、社会に貢献していきたいです。

最後にひとこと!

誰からも信頼される臨床検査技師になれるように4年間頑張ります!

## 看護学科



田中 麗菜さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

毎日充実した学校生活を送っています。授業では専門の知識を学ぶため覚えることが多く大変ですが、友達と授業の空き時間に勉強したり、話したりする時間がとても楽しいです。不安なこともありますが、先生方や先輩方が優しく、安心しました!

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

サークル活動に入って、先輩方や他の学科の人達との交流を深めることです。将来のために沢山のひととコミュニケーション能力を身につけたいです。また、ボランティア活動にも積極的に参加していきたいです。

最後にひとこと!

信頼される保健師になれるように勉強して、楽しい大学生活を送りたいと思います!

## リハビリテーション学科 理学療法専攻



青木 華蓮さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

今までの学校生活と違って、初めの頃は慣れないことが多く不安でしたが、今は友達もでき、専門的なことを学ぶことができて楽しいです。まだ始まったばかりですが友達と楽しく大学生活を送っています。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

やってみたいことは主に2つあります。1つ目は、学業とともにアルバイトに取り組んで社会経験を積んでいくこと。2つ目は、サークル活動などで沢山のひとと関わりコミュニケーション能力をさらに高めていくことです。

最後にひとこと!

自分の目指すPTになれるように、この4年間充実していきたいです。

## リハビリテーション学科 生活機能療法専攻



宮本 萌花さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

初めは交友関係が不安でしたが、オリエンテーションなどを通して交友を深めることができました。高校とは違い県外から進学してくる人も多いため、よく地元トークで盛り上がります。これから4年間同じ目標を持った仲間たちと協力し合いながら頑張っていきたいです。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

ボランティア活動や学友会の活動に積極的に参加したいです。活動を通して、同じ学年の人だけではなく先輩方や地域の方々とも多く関わることで、視野を広げていきたいです。

最後にひとこと!

素敵な作業療法士になれるよう頑張ります。

## リハビリテーション学科 言語聴覚専攻



井町 賀空さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

熊本保健科学大学での生活はとても楽しいです。理由は言語聴覚専攻のように少人数の仲間と生活していくからです。私が所属している言語聴覚専攻では34名が在籍しており、人数が少ない分、男女関係なく距離が近くて毎日が笑顔で溢れる学校生活を送れています。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

熊本保健科学大学は国際交流に力を入れています。私は将来、国籍を超えて患者さんと関わることができる言語聴覚士になりたいと思っています。なので、この学校で国際交流の活動に参加をして、英語のスキルを磨いていきたいと考えています。

最後にひとこと!

言語聴覚士になる為に全力を尽くします!

## 助産別科



植田 美咲さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

看護学科の4年間を過ごした環境で新生活を始められるため、安心感があります。専門性の高い講義や演習が続き、大変さがありますがずっと学びたかったことを思いっきり学べていることを有難く感じています。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

助産別科の学生で、子育てネットワーク組織が運営されているボランティアに参加させていただきます。地域のお母さん方や赤ちゃんと実際に触れ合い、お話できる貴重な機会なのでとても楽しみです。

最後にひとこと!

関わらせてくださるお母さん方に感謝して、入念な準備と思いで応えたいです。

## 大学院



西野 一史さん

### Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

母校である大学の大学院に入学できてとてもうれしく思います。働きながらの通学はとても大変ですが、その分学びも多くなり日々充実しています。15年臨床で培った経験と、これから学ぶ知識を元に看護分野で貢献できるよう頑張りたいと思います。

### Q2 大学生活でやってみたいことは?

15年前大学在籍時にはできなかった、学生食堂のメニュー制覇をやってみたいと思っています。今は働きながらなので、平日の昼に登学する時間はあまりありませんが、2年間かけて長期目標で行きたいと思っています。

最後にひとこと!

仕事と大学院の二刀流で頑張ります。

これから共に頑張りましょう!



# 令和4(2022)年度 著書論文歴

※詳細はホームページに掲載しております(<https://www.acoffice.jp/khsuhp/KgApp>)

※本学の教員・学生・受入研究員には下線(順位/著者数)

## 【査読有】

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Sakai Y, <u>Takeya M</u> (17/19), <u>Kuwahara K</u> .(他16名)	Testicular teratomagenesis from primordial germ cells with overexpression of germinal center-associated nuclear protein	Cancer Science	2023年
Ikezoe T, <u>Kawaguchi T</u> (11/16), <u>Obara N</u> .(他13名)	Long-term follow-up of patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria treated with eculizumab: post-marketing surveillance in Japan.	Int J Hematol	2022年
Rajib S.A, <u>Kawaguchi T</u> , <u>Satou Y</u> .(TK and YS contributed equally)(他4名)	A SARS-CoV-2 Delta variant containing mutation in the probe binding regions used for RT-qPCR test in Japan exhibited atypical PCR amplification and might induce false negative result.	J Infect Chemother	2022年
Ono T, <u>Kawaguchi T</u> (4/9), <u>Matsumura I</u> .(他6名)	Clinical outcomes of second-generation tyrosine kinase inhibitors versus imatinib in older patients with CML. (online ahead of print)	Cancer Science	2022年
Nishiyama-Fujita Y, <u>Kawaguchi T</u> (18/18).(他16名)	Outcomes of adolescents and young adults with chronic-phase chronic myeloid leukaemia treated with tyrosine kinase inhibitors.	Ann Med	2022年
Suzuki R*, <u>Kozuma Y</u> *, <u>Tanabe K</u> (4/9), <u>Noboru I</u> (5/9), <u>Arao H</u> (6/9), <u>Kawaguchi T</u> (7/9), <u>Yamamoto T</u> (他2名). (*equally contribution)	Artificial cerebrospinal fluid restores aspirin-inhibited physiological hemostasis through recovery of platelet aggregation function.	Acta Neurochirurgica	2023年
Ghosh AK, <u>Aoki M</u> (13/16), <u>Mitsuya H</u> .(他13名)	Design, Synthesis and X-Ray Structural Studies of Potent HIV-1 Protease Inhibitors Containing C-4 Substituted Tricyclic Hexahydro-Furofuran Derivatives as P2 Ligands.	ChemMedChem	2022年
Higashi-Kuwata N, <u>Aoki M</u> (17/35), <u>Mitsuya H</u> .(他32名)	Identification of SARS-CoV-2 Mpro inhibitors containing P1' 4-fluorobenzothiazole moiety highly active against SARS-CoV-2	Nature Communications	2023年
<u>Ito T</u> (1/13), <u>Nakaishi-Fukuchi Y</u> (7/13), <u>Kameyama H</u> (8/13), <u>Sato Y</u> .(他9名)	Pulmonary neuroendocrine cells and small cell lung carcinoma: Immunohistochemical study focusing on mechanisms of neuroendocrine differentiation.	Acta Histochem Cytochem	2022年
Mizumoto T, <u>Ito T</u> (4/11), <u>Yamagata K</u> .(他8名)	SIRT7 deficiency extends lifespan in male mice with an increase of fibroblast growth factor 21.	Cells	2022年
Sanada M, <u>Ito T</u> (12/12).(他10名)	Heterogeneous expression and role of receptor tyrosine kinase-like orphan receptor 2 (ROR2) in small cell lung cancer.	Hum Cell	2023年
Yamashita K#, <u>Haraguchi M</u> , <u>Yano M</u> *# (*corresponding author, #equally contributed)	Knockdown of TMEM160 leads to an increase in reactive oxygen species generation and the induction of the mitochondrial unfolded protein response	FEBS Open Bio	2022年
<u>Matsushima-Nagata K</u> (1/10), <u>Anraku K</u> (4/10), <u>Araki E</u> (9/10), <u>Sugiuchi H</u> (10/10).(他6名)	Relationship between remnant circulating lipoprotein cholesterol concentration, measured by homogeneous assay, and clinical parameters in patients with type 2 diabetes	biomolecules	2023年
Kotani N, <u>Nonaka K</u> (4/6), <u>Akaike N</u> .(他3名)	Depression of synaptic NMDA responses by xenon and nitrous oxide	J Pharmacol Exp Ther.	2023年
<u>Abe K</u> , <u>Kameyama H</u> , <u>Abe S</u> .	CD34 is Expressed in Endothelial Cells in Embryonic Testes and is Additionally Expressed in Non-Endothelial Cells in Postnatal Mouse Testes	Zoological Science	2022年
<u>Kawaguchi Y</u> (1/2), <u>Ito Y</u> .	The Invisible Work and its Value of Outpatient Nurses: A Case Study of an Internal Medicine Clinic in Fukuoka, Japan.	AHFE 2022 Conference Proceeding Edited Books	2022年
Shimamoto T, <u>Iiyama J</u> (5/8), <u>Uchino M</u> .(他5名)	Effects of Intensive Exercise on Cognitive Dysfunction in Patients With Pure Cerebellar Degeneration: A Single-Arm Pilot Study.	Ann Rehabil Med.	2022年
Miyamoto A, <u>Kubo T</u> (3/5), <u>Miyamoto C</u> .(他2名)	Molecular characterization of two pedigrees with maternally inherited diabetes mellitus.	Mitochondrial DNA Part B	2022年
Fukuda H, <u>Nakahara K</u> (8/9), <u>Ono R</u> .(他6名)	Development of a Data Platform for Monitoring Personal Health Records in Japan: The Sustaining Health by Integrating Next-generation Ecosystems (SHINE) Study	PLoS One	2023年
Sumizono M, <u>Yamamoto R</u> (3/10), <u>Tanaka T</u> (10/11), <u>Sakakima H</u> .(他7名)	Mechanisms of neuropathic pain and pain-relieving effects of exercise therapy in a rat neuropathic pain model	Journal of Pain Research	2022年

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Sekiguchi Y, Honda K(3/4), Izumi S.(1名)	Kinetic Interjoint Coordination in Lower Limbs during Gait in Patients with Hemiparesis	Biomechanics	2022年
Yaguchi H, Honda K(3/8), Izumi S.(他5名)	Biomechanical Characteristics of Long Stair Climbing in Healthy Young Individuals in a Real-World Study Using a Wearable Motion Analysis System	Biomechanics	2022年
Zhang W, Honda K(3/4), Izumi S.(他1名)	Postural adjustment in standing position when catching a ball under unpredictable conditions of the direction to be caught	Heliyon	2023年
Honda K(1/3), Izumi S.(他1名)	Effect of Aging on the Trunk and Lower Limb Kinematics during Gait on a Compliant Surface in Healthy Individuals	Biomechanics	2023年
Yamamoto R(1/5), Kaneo T.(他3名)	A study on how concurrent visual feedback affects motor learning of adjustability of grasping force in younger and older adults	Scientific Reports	2022年
Akizuki K, Yamamoto R(2/5), Ohashi Y.(他2名)	Association between the Effects of Positive Social-Comparative Feedback and Learners' Competitiveness	Journal of Motor Behavior	2022年
Yabuki J, Yamamoto R(3/5), Ohashi Y.(他2名)	Effectiveness of adjusted bandwidth knowledge of results in motor learning	Cogent Psychology	2022年
Miyata H(1/14), Tabira T.(他12名)	Association between satisfaction with meaningful activities and social frailty in community-dwelling Japanese older adults	Arch Gerontol Geriatr	2022年
Maruta M, Miyata H(6/13), Tabira T.(他10名)	Characteristics of meaningful activities in community-dwelling Japanese older adults with pre-frailty and frailty	Arch Gerontol Geriatr	2022年
Ikeda Y, Miyata H(4/7), Tabira T.(他4名)	Implications of refrigerator management on subjective memory complaints among Japanese community-dwelling older adults	Psychogeriatrics	2022年
Hidaka Y, Miyata H(8/13), Ohishi M.(他10名)	Relationship between grave visitation and apathy among community-dwelling older adults		2023年
Kodama N(1/3), Sanuki T.(他1名)	Effect of Voice Therapy as a Supplement After Reinnervation Surgery for Breathless Dysphonia Due to Unilateral Vocal Fold Paralysis	J voice	2022年
Sakamoto M, Takenaga K.	Nonanalytic terms in the effective potential at finite temperature for a scalar field on compactified space	Phys. Rev.	2022年
Tanaka E	The Failure of the Old Tinbox Throw: The Emptiness of the Citizen's Identity as a Nationalist in "Cyclops"	Joycean Japan	2022年
Kawasaki I, Masumitsu Y(3/5), Kondo S.(他2名)	Generational differences in coping behavior against occupational deprivation during COVID-19 pandemic	Japanese Journal of Occupational Science	2022年
中嶋貴子, 山下垂矢子, 久松美佐子	精神看護学教育における当事者参加型授業による看護学生の学修成果	インターナショナル Nursing Care Research	2022年
久松美佐子, 山下垂矢子, 末永真由美, 根路銘安仁	精神科病院のない離島の精神障害者の地域定着を支える訪問看護師の取り組み	社会医学研究	2023年
井上加奈子, 徳永郁子, 原口真由美, 高島利, 荒尾博美	看護学生のバイタルサイン測定 of 技術習得に向けた効果的な教育方法の検討	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
甲斐村美智子, 羽田野花美, 末永芳子	看護師の月経随伴症状が労働生産性およびQOLに及ぼす影響	女性心身医学	2023年
福本久美子, 坂口里美, 茶屋道拓哉, 甲斐村美智子	熊本地震後の生活の再建に影響した事柄	九州看護福祉大学紀要	2023年
角マリ子, 多久島寛孝	特別養護老人ホームが運営する認知症カフェの参加者がもつ参加の意義	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
申敏哲, 行平崇, 小牧龍二, 福永貴之, 坂本垂里紗, 亀山広喜, 登尾一平, 矢澤一良	ホスファチジルイノシトール50(PI 50)の摂取によるラットの記憶・学習能力増強とホスファチジルイノシトールの関係について	日本脂質栄養学会誌	2022年
申敏哲, 行平崇, 小牧龍二, 福永貴之, 田中哲子, 吉村恵	坐骨神経および脊髄神経のタンパク質発現に基づくベンゾ[a]ピレン投与ラットに対するシナモンの効果	福岡医学雑誌	2023年
小牧龍二, 行平崇, 福永貴之, 田中哲子, 申敏哲	ベンゾピレンの投与による感覚障害モデルラットに対するVitamin B2 関連物質β-NMNの効果検討	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
土井篤, 園畑素樹, 記伊祥雲, 橋本哲, 中田大揮	線維筋痛症に対する有酸素運動のもつ鎮痛効果検証	日本運動器疼痛学会誌	2022年
與座嘉康	ペーパーベイシエントを用いた非同期遠隔授業の試み	リハビリテーション教育研究	2022年
與座嘉康, 吉村祥平, 渡辺凜, 長友朱里, 荷川取春佳	女性中高年者における最高酸素摂取量推定法としての15m Incremental Shuttle Run Testの妥当性と信頼性について	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年

# 令和4(2022)年度 著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
著者：秋月千典，矢吹惇， <u>山本良平</u> ，山口和人，武内孝祐	課題難易度がバランス課題の遂行成績およびメンタルワークロードに与える影響	神戸国際大学リハビリテーション研究	2022年
濱口豊太，曾根稔雅，澤田辰徳，鈴木誠，下田信明，松尾崇史，田中寛之，他	標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 第2版		2022年
(責任著者) <u>小手川耕平</u> ，坂本勝哉，恵明子，安村明	自閉スペクトラム症児における他者評定の相違—保護者と支援者間の比較—	作業療法	2023年
(責任著者) <u>小手川耕平</u> ，大塚開成，河口万紀子	作業療法学生における高次脳機能障害の理解度と実践能力—臨床実習前学生を対象としたアンケート調査—	作業療法研究くまもと	2023年
大塚開成，河口万紀子， <u>小手川耕平</u>	視線に対する著先教示の有無が健常成人の箸操作能力に与える影響	作業療法研究くまもと	2023年
吉村友希	本学作業療法士養成課程における学内実習に関する報告	リハビリテーション教育研究	2022年
吉村友希	評価実習における自己効力感を高める授業の設計と効果の検討	作業療法	2022年
吉村友希	学習日誌を用いた遠隔授業による作業療法学生の思考、行為の変化	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
中川翔太，小田原守，今田道生，村野武志，山口祐二，鶴田豊，宮本恵美，大塚裕一	嚥下障害に対する理学療法の即時効果を認めた胸部食道癌術後長期経過の1例	日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌	2022年
上松智幸，光内梨佐，宮本恵美，大塚裕一	息こらえ嚥下および強い息こらえ嚥下法で舌骨上筋・下筋群の筋活動量と筋疲労	言語聴覚研究	2022年
<u>山田和慶</u>	ジストニアに対する機能神経外科治療の現在と未来	機能的脳神経外科	2022年
池寄寛人，松原慶吾，宮本恵美	客観的臨床能力試験が言語聴覚学専攻学生の興味・関心に与える影響	リハビリテーション教育研究	2022年
井崎基博，岩村純子，友清百千，岩村健司，嶋田かをる	自閉スペクトラム症のある学生に対する臨床実習における合理的配慮-アルファイ法による検討-	言語聴覚研究	2023年
<u>永友真紀</u>	学校支援ボランティアを通じた学生の学びの可能性	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
兒玉成博，鮫島靖浩，宮丸悟	喉頭癌に対する喉頭全摘術（SCL-CHEP）後の嚥下訓練および長期的な嚥下機能	嚥下医学	2023年
<u>山鹿敏臣</u>	ビデオミーティングシステムZoomを使用した授業および学会の遠隔配信について	臨床検査学教育	2022年
<u>山鹿敏臣</u> ，嶋田かをる，杉内博幸，松本珠美，安田大典，岩村純子，河瀬晴夫，友清百千，原口奈美，檜原真二	医療系私立大学における「カラーユニバーサルデザイン」の構築に向けて～ 教職員へのアンケート分析結果 ～	臨床検査学教育	2023年
渡邊淳子	改訂版 大学生のための論文・レポートの論理的な書き方		2022年

## 【査読無】

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Miyamoto A, Kubo T(4/6), Miyamoto C.(他3名)	The Outcome of Neurorehabilitation Efficacy and Management of Traumatic Brain Injury.	Frontiers in human neuroscience	2022年
竹屋元裕	老化とマクロファージ —加齢関連疾患へのかわり—	臨床免疫・アレルギー科	2023年
青木学，中田浩智	HIV/AIDSとその治療の新展開/臨床開発のパイプラインにある新規化合物	医学のあゆみ	2023年
荒尾ほほみ，田邊香野，川口辰哉，上妻行則	不織布マスク vs. ガーゼマスク vs. ウレタンマスク	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
松本珠美	ここからはじめる臨床検査技師国家試験ファーストトレーニング		2022年
<u>山本隆敏</u>	熊本市医師会PCRセンターとの協力体制について	熊本市医師会PCRセンター年報	2022年
<u>山本隆敏</u>	熊本市医師会PCRセンターへむけて	熊本市医師会PCRセンター年報	2022年
井上加奈子，荒尾博美	初めて実習に臨む看護学生の学びを支援する授業の工夫	看護展望	2023年
川口弥恵子，長家智子	ゴードンの枠組みでアセスメント 事例でわかる!疾患別看護過程 正常分娩	プチナース	2022年
井上加奈子	自らの教育実践をことばにし、省察する - 教師学研究の目指すところへ:実践者と若手研究者の対話 -	教師学研究 2022 Vol.25 No.2	2022年
甲斐村美智子	母親の養育態度が幼児の寝かしつけ行動と睡眠習慣に及ぼす影響	地域ケアリング	2023年



著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
安武綾,西森利樹,山崎尚美,戸渡洋子,高島利,谷川千春,内藤豊,杉本多佳子	認知症啓発活動を行う認知症サポーターのBenefit-認知症啓発活動を行う認知症サポーター大学生ボランティア団体「Orange Project」	アドミニストレーション	2022年
高島利、吉野拓未、井上加奈子、荒尾博美	コロナ禍の看護基礎教育施設における代替学内実習の現状に関する文献レビュー	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
飯山準一,岩下佳弘,魏長年	シャワー浴やバスタブ浴など温熱習慣の違いが慢性腎臓病の予後に及ぼす影響	日本健康開発雑誌	2022年
久保高明	必勝カコムンPTOT共通(解剖・生理・運動学)		2022年
久保高明	必勝カコムンPTOT共通(臨床医学)		2022年
久保高明	必勝カコムン作業療法士		2022年
久保高明	必勝カコムン理学療法士		2022年
久保高明、宮本明	嚥下機能に着目した理学療法評価	理学療法ジャーナル	2023年
田中貴土、上野将紀	リハビリテーションと分子標的の併用による脳損傷後の機能回復	基礎理学療法学	2022年
山野克明	作業療法士と研究倫理 ～事例報告と改正個人情報保護法に焦点をあてて～	作業療法研究くまもと	2023年
吉村友希	学生の自己調整を促す授業実践	リハビリテーション教育研究	2022年
吉村友希	作業療法学生を対象とした精神障害領域の臨床実習自己効力感育成のためのシミュレーション教育の提案	地域ケアリング	2022年
中川法一(監修)、大塚裕一(編著)、長福祐佳、上野和博、小田原守、池寄寛人、竹谷剛生、榎田幸助	実践！言語聴覚士の診療参加型実習ガイドブック	(株)医学と看護社	2022年
池寄寛人	言語聴覚士国家試験問題の出題傾向に関する研究	熊本保健科学大学研究誌第20号	2023年
著:井崎基博 編:大塚裕一	よくわかる！言語発達障害の臨床	(株)医学と看護社	2022年
松原慶吾	ディサースリアのための発話補助法：システムツティックレビュー	ディサースリア臨床研究	2022年
Elizabeth K. Hanson, et al/訳：松原慶吾	ディサースリアのための発話補助法：システムツティックレビュー	ディサースリア臨床研究	2022年
松尾朗	言語聴覚士養成教育における学習目標・評価に関する実践的研究-ICEアプローチを活用して-		2023年
田中恵理	(プロシーディングス) 「エヴリン」におけるアイルランド性への回帰と船乗りの帰還	日本英文学会	2022年
田中恵理	(Book Review) Masaya Shimogusu, Izumi Sugawa, Akira Tamura, eds., <I>The Centenary Ulysses</I> [Hyakunenme no Ulysses]	Journal of Irish Studies	2022年
伊吹唯	新刊紹介 清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平著『日本社会の移民第二世代-エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』	移民研究年報	2022年
熊谷栄聖、齊藤司馬、竹島久志、佐々木千穂、境信哉	重度肢体不自由児のためのオートスキャン練習教材の開発	Japan ATフォーラム2022 in 新居浜・講演論文集	2022年
井村保、佐々木千穂	言語獲得時期にある児童への意思伝達装置の支給に関する実態調査	厚生労働行政推進調査事業費補助金(障害者政策総合研究事業)分担研究報告書	2023年
編：佐々木千穂	スーパーハイブリッドチャレンジの冒険	青い鳥財団助成報告書	2023年
佐々木千穂	医療的ケアを必要とする重症難病児の自立支援について	日本難病医療ネットワーク機関誌	2022年
飯山有紀	1章5.けいれんしている 2章4.脳動静脈奇形	マンガで学ぶ脳神経疾患患者の急変対応33場面	2022年
飯山有紀	緩和ケア 症状緩和とスピリチュアルペインへの対応	認知症plus	2023年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第1回	PHARM TECH JAPAN	2022年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第2回	PHARM TECH JAPAN	2023年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第3回	PHARM TECH JAPAN	2023年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第4回	PHARM TECH JAPAN	2023年

# 令和4(2022)年度 学会発表

## 【国際学会】

※本学の教員・研究員・学生には下線

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Kawaguchi Y, Ito Y	The Invisible Work and its Value of Outpatient Nurses: A Case Study of an Internal Medicine Clinic in Fukuoka, Japan.	Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE) 2022 International Conference
Kawaguchi Y, Ito Y	How do ambulatory nurses perceive their work value? : An ethnographic study of a Japanese small clinic	The 2023 Annual Meeting of The Society for Applied Anthropology (SfAA)
Hisamatsu M, Yamashita A, Suenaga M, Arai H	UNDERSTANDING OF PSYCHIATRIC NURSES OF THE DIFFICULTIES OF PEOPLE WITH MENTAL DISORDERS LIVING IN REMOTE ISLANDS WITHOUT PSYCHIATRIC HOSPITALS	25th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS CONFERENCE
Hisamatsu M, Yamashita A, Nerome Y, Suenaga M	Factors Affecting the Quality of Life of Persons with Mental Disorders Living in Remote Islands in Japan	26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS CONFERENCE
Maeda N, <u>Hisamatsu M</u> , Nishimura Y, Furukawa H, Tsutsumi Y, Niwa S	Team support for foreign caregivers to work in Japanese geriatric long-term care facilities	26th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS CONFERENCE
星美和子, 西田裕子, 吉武美佐子, 金崎美穂, 吉野拓未, 中庭由美, 光武玲子	患者の安全とケアの改善に関するシミュレーションにおける看護学生の体験	Sigma's 33rd International Nursing Research Congress
<u>Tanaka T</u> , Ura H, Ueno M	Voluntary running restores neuronal reorganization abilities lost in aged mice after brain injury	7th Allied Health Science Symposium

## 【全国学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
古川翔大, 上野志貴子, <u>川口辰哉</u> , 高木あゆ美, 岩永栄作, 松岡雅雄	門脈血栓症を契機に発作性夜間ヘモグロビン尿症と診断された症例	第84回日本血液学会学術集会
坂井亜夕子, 上野志貴子, <u>川口辰哉</u> , 松岡雅雄	COVID-19ウイルスワクチンにより持続する溶血発作を惹起されたPNHの一例.	第84回日本血液学会学術集会
西村純一, <u>川口辰哉</u> , 伊藤秀一, 村井弘之, 下野明彦, 松田貴久, 深水裕二, 秋山仁泉, 林英生, 中野貴司, 丸山彰一	特定使用成績調査(PNH, aHUS, gMG)を用いたエクリズムブの安全性統合解析.	第84回日本血液学会学術集会
平野太一, 斎藤禎晃, 上野志貴子, 米村雄士, 安永純一郎, <u>川口辰哉</u> , 松岡雅雄	塩酸バンコマイシンによる溶血を契機に診断した発作性夜間ヘモグロビン尿症	第84回日本血液学会学術集会
青木学, 青木宏美, Haydar Bulut, 林宏典, 長谷川和也, Arun K. Ghosh, Alice K. Pau, 満屋裕明	HIV-1 プロテアーゼ阻害剤GRL-142は、インテグラーゼのNLSに結合、HIV-1DNAの核移行を阻害し、インテグラーゼ阻害剤耐性HIV-1変異体を強力に阻害する	第30回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会
知念拓磨, 立石大, 島垣和功, 福田亮太, Mohamed O Radwan, 坂本亜里紗, 三隅将吾, 大塚雅巳, 藤田美歌子, 安楽健作	MAドメインとカルジオリピンとの結合を基軸とした抗HIV化合物の創製	日本ケミカルバイオロジー学会第16回年会
南部雅美, 亀山広喜	呼吸器細胞診における核クロマチンのフラクタル解析	第61回日本臨床細胞学会秋期大会
<u>立石多貴子</u> , 酒井航平, 武島有志, 西迫彩加, 山内直, 永田和美, 眞部正弘, 蛭田修	血清カルシウム測定をモデルケースとした臨床検査室で実施可能な頑健性評価に関する試み	第33回生物試料分析科学学会年次学術集会
松本珠美, 岩村純子, 嶋田かをる, 友清百千, 原口奈美, 山鹿敏臣, 杉内博幸, 安田大典, 河瀬晴夫, 植原真二	カラーユニバーサルデザイン構築への取り組み ―学生相談・修学サポートセンター リーフレットのCUD認証に臨んで―	AHEAD JAPAN 2022 第8回大会
田邊香野, 上妻行則	ヒトB細胞株 Ramos 2G.6におけるIgE合成へのPP2Aファミリー分子の関与	第71回日本アレルギー学会学術大会
Tanabe K, <u>Kozuma Y</u>	PP2A family molecule is involved in the regulation of IgE class switch recombination and the differentiation in human peripheral blood B cells	第51回日本免疫学会学術集会
荒尾ほほみ, 古垣達也, 田邊香野, 登尾一平, <u>川口辰哉</u> , 平松祐司, 鈴木保之, 上妻行則	人工肺交換を余儀なくされる人工肺流入部圧力上昇のメカニズムの解明	第51回人工心臓と補助循環懇話会学術集会
登尾一平, 内場光浩, <u>川口辰哉</u> , 松岡雅雄, 上妻行則	脱シアル化血小板がHepG2 細胞の増殖に及ぼす影響	第44回日本血栓止血学会学術集会
荒尾ほほみ, 登尾一平, 田邊香野, <u>川口辰哉</u> , 上妻行則	交差混合試験の新規サーベイ検体の開発：直接経口抗凝固薬を用いた疑似検体の可能性	第44回日本血栓止血学会学術集会
荒尾ほほみ, 登尾一平, 田邊香野, <u>川口辰哉</u> , 上妻行則	直接経口抗凝固薬 rivaroxaban は交差混合試験理解のための凝固因子インヒビター模擬検体として有用である	第16回日本臨床検査学教育学会学術大会
荒尾ほほみ, 登尾一平, 古垣達也, 田邊香野, <u>川口辰哉</u> , 鈴木保之, 平松祐司, 上妻行則	体外式膜型人工肺 (ECMO) 内に生ずる血栓の原因を探る～模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析～	第60回日本人工臓器学会大会
田中千尋, サトウタツヤ, 吉田さとみ, <u>川口弥恵子</u> , 横山直子	COVID-19危機と対峙する看護教員の経験のプロセス——分岐点に着目したイマジネーションと展結 (Transduction)	日本質的心理学会 第19回大会
戸渡洋子, 荒木善光, 高島利	健康格差縮小のための公衆衛生看護実践モデルの検討 潜在能力アプローチに基づくアセスメントの有用性について	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
鈴木純子, 一色喜保, 小山千秋, 窪田志穂, 齊藤瑛梨, 田村晴香, 戸渡洋子, 永井智子, 中島富志子, 山崎真帆	集まろう、つながろう、話そう今日から活かせる教育実践のあれこれ～ラダー1 教員と考える学生とともに育ちあう教育～	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
久松美佐子, 山下亜矢子, 末永真由美, 前田則子, 根路銘安仁	精神科病院がない離島の精神障害者の生活を支援する多職種の困難	第63回日本社会医学会総会
前田則子, 久松美佐子, 西村由実子, 古川秀敏, 堤由美子, 丹羽さよ子	高齢者福祉施設における外国人介護職の介護実践力を支えるチームケアに関する文献検討	第63回日本社会医学会総会
山下亜矢子, 久松美佐子, 中嶋貴子	アルコール使用障害を有する若年層の女性を対象とした教材の実用可能性の検証	第42回日本看護科学学会学術集会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
松枝美智子, 大川嶺子, 河添こず恵, 増満誠, 斎藤直毅, 宇佐美しおり, 黒髪恵, 丸本典子, 児玉ゆう子, 山口玲子, 山岡由実, 江上史子, 西村和美, 永野佳世, 宮崎初, 川田美和, 餅田啓司	WAM助成「COVID-19大規模災害で疲弊した看護職者への総合的支援事業」の展開 (交流集会)	第42回日本看護科学学会学術集会
松成裕子, 松枝美智子, 増満誠, 本武敏弘, 江上史子, 永野佳世, 前田愛, 不動寺美紀	高度実践看護師の臨床における研究活動の促進を目指して:九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会の試み (交流集会)	第42回日本看護科学学会学術集会
甲斐村美智子	母親の養育態度と養育行動 および幼児の睡眠習慣との関連	第50回日本女性心身医学会学術集会
小田政子, 甲斐村美智子, 倉岡将平, 加藤貴彦	新型コロナ禍における熊本大学エコチル調査小学2年生学童期検査参加率向上への取り組み	第81回日本公衆衛生学会学術集会
甲斐村美智子, 福本久美子	幼児の睡眠習慣とソーシャルキャピタルとの関連	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
坂口里美, 福本久美子, 甲斐村美智子	熊本地震後の生活の再建に影響した事柄	日本公衆衛生看護学会学術集会
角マリ子, 多久島寛孝	特別養護老人ホームが運営する認知症カフェ利用者の実態と課題	第42回日本看護科学学会学術集会
永田千鶴, 田中愛子, 北村育子, 清永麻子, 松本佳代, 大野陽子	介護老人保健施設における看取り教育研修プログラムの実践の評価	第46回 日本死の臨床研究会年次大会
吉田理恵, 晴佐久悟, 岩本利恵	乳がん治療中の口腔内症状と術後の手指症状が退院後の口腔関連QOLに与える影響	第42回日本看護科学学会学術集会
岩本利恵, 吉田理恵, 末永陽子他	炎症性腸疾患患者における口腔関連QOLとwell-beingの関連	第42回日本看護科学学会学術集会
星美和子, 吉武美佐子, 藤川真紀, 西田裕子, 吉野拓未, 金崎美穂	看護系大学生の自己超越性とウェルビーイングに関する研究	第42回日本看護科学学会学術集会
飯山準一, 古閑公治, 奥川洋司, 安田大典, 久保高明, 爲近岳夫, 渡邊智, 松本圭史, 綱川光男	1,8-cineole吸入が若年成人の前頭葉機能に及ぼす影響	第87回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
宮本陳敏, 南場芳文, 劉振, 栗本由美, 宮本明, 久保高明	小規模地域在住高齢者の呼吸と健康パラメータの関係	第7回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術集会
土井篤	サテライトプログラム 痛みのやさしい脳科学入門 -痛みの発生から抑制まで-	第26回日本ペインリハビリテーション学会
岡本彬, 福田耕平, 上土井亮太, 土井篤	脳活動は高負荷自転車エルゴメータ運動によって、運動終了後30分間上昇し続ける	第27回日本基礎理学療法学会学術集会
右田大, 堀口喬, 笠作康太郎, 大野有紗, 田邊清和, 吉ヶ別符康成, 土井篤	新型コロナウイルスで通所リハビリを自粛した 利用者のTimed Up & Go Testの変化と運動習慣の関連	第9回日本地域理学療法学会学術大会
前田暉, 桑原孝成, 岩下佳弘, 杉本和樹, 山田しょう子, 飯山準一, 向山政志	温熱プレコンディショニングによるシスプラチン腎症の軽減効果および熱受容に対するTRPV4の役割	第87回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
田中志穂, 前田暉, 北島愛都, 岩下佳弘, 飯山準一	温熱プレコンディショニングによるcisplatin尿管細胞傷害に果たすオートファジーの応答	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
久保下亮, 平野佳代子, 井上夏香, 服部潤	多様性のあるスポーツ理学療法士	第9回日本スポーツ理学療法学会学術大会
五十嵐安沙夏, 久保下亮	車いすテニスのサーブ動作における上肢筋力と関節運動との関係	第31回日本バラスポーツ学会
Tanaka T, Ura H, Togi S, Niida Y, Ueno M	Voluntary exercise restores the ability of corticospinal tract rewiring and motor recovery loss in aged mice after brain injury	NEURO 2022 (第45回 日本神経科学大会)
田中貴土, Dinh Thi Nguyen, Nichakarn Kwankaew, 加藤伸郎, 森和俊, 堀修	小胞体ストレス応答因子ATF6βの欠損はストレスホルモン依存的な不安症を呈する	第20回コ・メディカル形態機能学会学術集会
田中貴土, 浦大樹, 礪澄仁, 新井田要, 上野将紀	自発的な走行運動は高齢期に失われる脳損傷後の神経可塑性を回復させる	第27回日本基礎理学療法学会学術大会
関口雄介, 本田啓太, 大脇大, 出江紳一	脳卒中片麻痺患者の歩行速度に影響する運動力学的因子の損傷側間の違い	第20回日本神経理学療法学会学術大会
本田啓太, 関口雄介, 出江紳一	転倒歴のある脳卒中患者の歩行時における路面変化がつま先クリアランスと動的安定性制御に及ぼす影響	第20回日本神経理学療法学会学術大会
本田啓太, 関口雄介, 大脇大, 岡本隆介, 犬塚詩乃, 森本徳宏, 出江紳一	背屈抵抗機構を備えた新しい足関節装具は脳損傷後片麻痺患者の歩行時の空間的非対称性を改善するのか?	第20回日本神経理学療法学会学術大会
山本良平, 秋月千典, 矢吹惇, 山口和人, 金野達也	把握力調整課題における高齢者と若年者の学習効果の違い	第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 (岡山)
山口泰華, 田中聡	マウス始原生殖細胞形成における転写因子Six1とSix4の役割について	第115回 日本繁殖生物学会
Yamaguchi Y, Kiyonari H, Tam P, Tanaka S	Roles of Importin13 in mouse germ cell development	第45回日本分子生物学会
銚之原将希, 石田恭涼, 藤村誠, 東登志夫, 松尾崇史	リズム順応時のターゲット数の違いが順応効果に及ぼす影響	第16回日本作業療法研究学会学術大会
大塚開成, 河口万紀子, 小手川耕平	視線に対する教示の有無が健康成人の箸操作能力に与える影響について	第56回日本作業療法学会
池寄寛人, 畑涼涼, 児玉成博, 松原慶吾, 水本豪	学生と若手言語聴覚士における言語聴覚士自己効力感尺度の下位項目の比較	第23回日本言語聴覚学会
曾山直宏, 池寄寛人	失書で発症し進行後にカプグラ症候群を呈したPCAの1例	第46回日本神経心理学学会学術集会
池寄寛人	言語聴覚士国家試験問題における出題項目の傾向分析	第35回教育研究大会・教員研修会
池寄寛人, 児玉成博	急性期病院にて自動車運転の再開を希望する失語症患者の特徴	第67回日本音声言語医学会学術講演会

# 令和4(2022)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
田畑伸治, 池崎寛人	血液透析の有無と大腿骨近位部骨折術後経過との関連性の検討	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会
宮本卓海, 熊井良彦, 松原慶吾, 折田頼彦	管腔内インピーダンス測定を用いた食道通過速度の評価に関する予備的検討	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
平江満充帆, 松原慶吾, 水本豪, 古賀和美	超音波検査による嚥下関連筋の量的・質的評価の信頼性について	第1回日本老年療法学会学術集会
畑添涼, 斎藤晴香, 松本哲夫, 水本豪	内側前頭葉損傷により意欲・発動性低下と感情障害を呈した一症例における臨床経過の検討	第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
田尻裕理, 有働尚介, 畑添涼, 佐藤達矢	回復期リハビリテーション病棟に入院中の高校生に対する遠隔授業参加への支援	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会
武田知里, 畑添涼, 水本豪, 増田正彦, 松本哲夫	マルチリンガルの失語症における臨床経過の検討	第23回日本語聴覚学会
飯干紀代子, 市川勝, 黒川容介, 中川良尚, 中島明日香, 畑添涼, 實地沙紀, 三村將	遠隔で行う標準失語症検査 (SLTA) の信頼性と満足度の予備的検証	第46回日本高次脳機能障害学会学術総会
兒玉成博, 湯本英二, 讃岐徹治, 宮本卓海, 田代丈二	一側喉頭麻痺神経再建術後症例に対するVocal Function Exerciseの効果	第23回日本語聴覚学会
兒玉成博, 鯨島靖浩, 宮丸悟	喉頭癌に対するSCL-CHEP後の嚥下訓練および長期的な嚥下機能	第28回日本摂食リハビリテーション学会
兒玉成博, 蓑田涼生, 竹松知紀	聴覚情報処理障害 (Auditory Processing Disorder : APD) を疑う成人例に対する包括的評価の意義	第67回日本聴覚医学会
畑添涼, 斎藤晴香, 松本哲夫, 水本豪	アパシーと感情障害を呈した一症例の臨床経過の検討	第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
石川鍾子, 春原則子, 水本豪, 橋本幸成	自発話、復唱、書字において助詞の誤りが顕著であった失語症例	第23回日本語聴覚学会
武田千里, 畑添涼, 水本豪, 増田正彦, 松本哲夫	マルチリンガルの失語症を呈した一例の臨床経過の検討	第23回日本語聴覚学会
森みずえ, 水本豪, 井上加奈子	大学職域接種におけるCOVID-19ワクチン-モデルナ筋注後の副反応と対処行動の実態-	第42回日本看護科学学会学術集会
田中恵理	「エヴリン」におけるアイルランド性への回帰と船乗りの帰還	日本英文学会第94回全国大会
Yamada K, Fitzsimons A, Tanaka E, Yokouchi K	A Revaluation of Women' s Bodily Descriptions in<I>Ulysses</I>	IASIL Japan The 38th International Conference Ulysses and Beyond
伊吹唯	移民送出地域における移民史の再構築と継承活動-熊本県の事例からの考察	日本移民学会第32回年次大会
伊吹唯	日本社会における「同化」論の批判的再検討 - エスノ・ナショナリズム/植民地主義との関係から	第7回日本移民学会冬季研究大会
山本美由紀, 中村実穂, 原田なをみ	自治体の関与を受けない「望まない妊娠」をした女性のための助産師による支援のフレームワーク	第63回日本母性衛生学会総会・学術集会
飯山有紀, 古村美津代	認知症疾患医療センタースタッフが軽度認知障害診断直後からの支援で抱えている困難	第23回日本認知症ケア学会大会
河口美穂, 杉本智波, 飯山有紀	急性期における軽症脳卒中患者の再発予防支援~保健信念モデルを活用した事例~	第49回日本脳神経看護研究学会
江隈あすか, 飯山有紀, 山下亜希子, 杉本智波	がん終末期に脳梗塞を発症した患者に対する脳血流量に着目した意思決定支援	第49回日本脳神経看護研究学会
堀内忍, 飯山有紀, 岡野琴絵	脳梗塞急性期における脳血流維持を意識した水分栄養管理	第49回日本脳神経看護研究学会
百田武司, 木下真吾, 横井靖子, 飯山有紀	クリティカル部門における脳卒中患者への日常生活援助の中で行う患者のADLを強化する看護ケアの実態	第42回日本看護科学学会学術集会
岩村純子, 松本珠美, 村瀬美香, 原口奈美, 嶋田かをる	医療系大学での障害学生支援に向けたピア・サポーター養成 - 「心のバリアフリー」 - を目指して	日本ピア・サポート学会第20回記念研究大会
渡邊淳子	「共に学ぶ経験者」の投入による双方向性授業の模索	初年次教育学会第15回大会
渡邊淳子	対話によるライティング指導の試み	初年次教育学会実践交流会 in 北陸
熊谷崇聖, 齊藤司馬, 竹島久志, 佐々木千穂, 境信哉	重度肢体不自由児のためのオートスキャン練習教材の開発	Japan ATフォーラム2022 in 新居浜
高田政夫, 佐々木千穂, 境信哉, 井村保, 竹島久志, 中礼仁孝, 桑幡和司, 兒玉憲昭, 伊佐地隆	SMAⅠ型児スイッチ操作用上肢装具再製作の経過と多職種連携における情報交換の必要性について	第38回日本義肢装具学会学術大会
坂本智代美, 志多田千恵, 高橋元秀, 久米田幸介	破傷風毒素検出ELISA法およびイムノクロマト法の開発	第69回日本臨床検査医学会学術集会
坂本智代美, 諸熊一則, 志多田千恵, 岩永祐季, 高橋元秀, 久米田幸介	破傷風抗体測定用ELISA法の開発	第26回日本ワクチン学会学術集会
蛭田修	GMP事例集(2022)改定について	日本PDA製薬学会第30回年会

## 【地方学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
山本景一, 前田ひとみ, 林秀幸, 澤智裕, 川口辰哉	当院で分離されたMRSAのPOT法による分子疫学解析-第3報-	第92回日本感染症学会西日本地方学会学術集会
山田達之, 荻泰裕, 木本奈那, 氏原啓太, 津村真侑, 木村契太, 山本隆敏, 川口辰哉	臨床検体を用いたSARS-CoV2検出用ダイレクト試薬の比較検討	第54回熊本県医学検査学会
濱崎美穂, 久松美佐子	がん患者や家族の意思決定を支援する看護師の関わりについての文献検討	第27回日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会
村上美華, 國府浩子	補助化学療法を受ける乳がん患者の倦怠感セルフマネジメントを支援するケアプログラムの開発 (第一報)	日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方学術集会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
原口真由美, 徳永郁子, 岩村純子, 荒尾博美	基礎看護実習Ⅱの臨地実習と学内代替実習におけるルーブリックを用いた評価の比較	日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方学会術集会
小牧龍二, 行平崇, 福永貴之, 田中哲子, 今井玲華, 可徳晶子, 羽田野雄太, 申敏哲	舌への痛覚、触・圧覚刺激が脳血管性認知症モデルラットに及ぼす影響	第73回西日本生理学会
申敏哲, 行平崇, 小牧龍二, 福永貴之	自発運動量、感覚閾値を用いたベンゾピレン暴露ラットに対するケイヒの効果検討	第73回西日本生理学会
福永貴之, 小牧龍二, 行平崇, 石原光菜, 齊田菜里, 竹田陸人, 宮崎真里奈, 松本祥幸, 申敏哲	夜行性動物であるラットの習性を用いた黒酢と黒高麗人参の抗疲労効果検討	第73回西日本生理学会
岡本彬, 森ゆい, 新名祐介, 松本隆嗣, 松元淳, 土井篤	壮年期脳出血患者に対する長下肢装具作製の課題解決に向けた装具回診の意義	第25回熊本県理学療法士学会
田中 貴土, 浦大樹, 上野将紀	高齢期の脳損傷マウスにおける神経回路再編に寄与する遺伝子の解析	第25回熊本県理学療法士学会
松尾崇史, 鉦之原将希, 吉瀬陽, 田平隆行, 東登志夫	健常者における言語を用いた音源定位に対するプリズム順応の影響	九州作業療法学会 in 佐賀
宮川結衣, 花宮徳介, 吉永寛生, 野中裕樹, 藤井廉, 細川浩, 田中慎一郎, 小手川耕平	注意障害を有する脳卒中後症例に対して@ATTENTIONを用いた介入が有用であった一症例	第18回熊本作業療法学会
小手川耕平	自閉スペクトラム症児の特性に対する保護者とセラピストの捉え方の違い	第18回熊本作業療法学会
池寄寛人	「言語聴覚士法」成立後の新聞記事分析—言語聴覚士関連記事の経年変化と関連職種との比較—	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
中西恵莉, 池寄寛人, 清永紗知, 園田真由美, 宮川佳代	急性期に特異な言語症状を呈した語義理解障害を中核とする超皮質性感覚失語の一例	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
末永亜紀, 池寄寛人	脳梗塞後遺症により完全型 Gerstmann 症候群を呈した症例	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
井崎基博	認知行動療法を通して職場でのカミングアウトに至った成人吃音者の一例	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
飯田一成, 平江満帆帆, 池田健吾, 松原慶吾, 細川浩	下顎下面への磁気刺激が喉頭の位置と運動にもたらす効果について	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
平江満帆帆, 松原慶吾, 水本豪, 古賀和美	超音波検査による嚥下関連筋評価の画像解析の信頼性について	第11回日本語聴覚士協会九州地区学術集会熊本大会
松崎優子, 植田菜月, 宮本恵美	「力」の構音方法を用いた喉頭挙上訓練の検討	日本語聴覚士協会 第11回九州地区学術集会 熊本大会
永友真紀	大学生による小学校での学校支援ボランティアの活動報告	日本語聴覚士協会 第11回九州地区学術集会 熊本大会
鶴野菜依, 黒木佑紀, 永友真紀	熊本県における小児訪問言語聴覚療法の現状の把握	日本語聴覚士協会 第11回九州地区学術集会 熊本大会
松尾朗	ICEアプローチを援用した学習評価の実践的研究	中国四国教育学会 第74回大会 (香川大学)
松尾朗	言語聴覚士における保育所等巡回相談の課題と今後の展望 —大川市幼児教育カウンセラー活用事業を通して—	日本語聴覚士協会 第11回九州地区学術集会 熊本大会
東谷孝一	トマスを読む難しさと楽しさ ---研究会のメンバーの一人として --- (稲垣良典先生追悼シンポジウム)	九州大学哲学会令和4年度大会
新名桂子, 岩下いずみ, 安井誠, 田中恵理	モリーの独白における身体表象の書き換え	日本英文学会九州支部第75回大会
志多田千恵, 坂本智代美, 高橋元秀, 久米田幸介	破傷風患者検体から毒素検出に開発したELISA定量法と破傷風菌の毒素産生能への応用	2022年度 日臨技九州支部医学検査学会

### 【研究会・シンポジウム等】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
上妻行則	模擬体外循環と血小板	第2回 Thrombosis Hemostasis Research Seminar
登尾一平, 上妻行則, 内場光浩	肝細胞増殖における脱シアル化血小板の関与の可能性	第1回 Thrombosis Hemostasis Research Seminar
戸渡洋子	A Study on Public Health Nursing Approach toward Reduction of Health Disparities, ~ Application of Capability Approach of A. Sen	7th AHSS Plenary and Concurrent Presentations
松尾健志郎, 敷島侑政, 島田真希, 森川文華, 久保高明	構音訓練が舌圧に及ぼす影響について	第174回熊本リハビリテーション研究会
岡本 彬, 福田耕平, 上土井亮太, 土井篤	脳活動の上昇が短時間の低負荷自転車エルゴ運動終了直後と20分後に起こる坐骨神経挫滅モデル動物に対する神経被覆は、坐骨神経運動成分の回復を促進するかもしれない。	第175回熊本リハビリテーション研究会
土井篤, 橋本 哲, 内橋和芳, 記伊祥雲, 園畑素樹	坐骨神経挫滅モデル動物に対する神経被覆は、坐骨神経運動成分の回復を促進するかもしれない。	九州整形外科疼痛懇話会
田中貴土, 上野将紀, 浦大樹, 柳田寧々, 三次恭平, 古木ほたる, 前田拓哉	運動による脳・神経の若返りが実現する健康長寿社会	第7回熊本テックプランングランプリ
吉村友希	作業療法学生を対象とした精神障害領域臨床実習のための授業実践および改善	第7回教授システム学研究センター研究会
松原慶吾, 熊井良彦	食道癌術後患者における頸部屈曲位がもたらす効果の機序	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
兒玉成博, 井崎基博, 畑添涼, 竹松知紀, 蓑田涼生	熊本県における聴覚情報処理障害 (APD) /聞き取り困難 (LiD) に対する取り組み	第9回日本小児診療多職種連携研究会
兒玉成博	片側声帯麻痺に対する音声治療 シンポジウムA40	第67回日本音声言語医学会学術講演会
熊谷栄聖, 竹島久志, 佐々木千穂, 境信哉	重度肢体不自由児のためのオートスキャン・マッチング練習教材の開発	令和4年度東北・北海道地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウム
蛭田修	資源地政学と医薬品の原料問題	第28回 医療経済研究機構シンポジウム

## 令和4年度決算報告

学校法人銀杏学園の令和4年度決算は、令和5年5月31日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

### ①事業活動収支計算書

令和4年度の経常収支差額は+162百万円と収支均衡を達成しており、**前年比78百万円減少**でした。これは支出面で**人件費が前年比97百万円増加**したこと等が原因です。

### ②資金収支計算書

令和4年度の翌年度繰越支払資金は1,638百万円となり、**前年比87百万円減少**でした。これは有価証券の運用規模を**前年比496百万円**

拡大したことが原因です。

### ③貸借対照表

令和4年度の総資産は10,935百万円、負債969百万円、**純資産9,966百万円**となりました。これらの前年比は総資産が+290百万円、負債が+130百万円、純資産が+160百万円でした。資金の調達と運用という視点で見ると、純資産・負債の増加290百万円から調達した資金を、有価証券等の総資産の増加290百万円という使途へ運用した、ということが出来ます。

事業活動収支計算書要約（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：千円）

科目		令和4年度決算	令和3年度決算	増減	科目	令和4年度決算	令和3年度決算	増減		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,046,725	2,000,425	46,300	特別収支	資産売却差額	0	00	0
		手数料	34,125	33,195	930		その他の特別収入	7,982	14,081	△ 6,099
		寄付金	26,308	32,549	△ 6,241		特別収入計	7,982	14,081	△ 6,099
		経常費等補助金	428,112	402,150	25,962		資産処分差額	9,944	675	9,269
		付随事業収入	224,421	194,213	30,208		その他の特別支出	0	0	0
	雑収入	68,957	48,327	20,630	特別支出計		9,944	675	9,269	
	教育活動収入計	2,828,648	2,710,859	117,789	特別収支差額		△ 1,962	13,406	△ 15,368	
	事業活動支出の部	人件費	1,398,257	1,301,081	97,176		(予備費)			0
		教育研究経費	1,053,917	992,693	61,224		基本金組入前当年度収支差額	159,592	252,855	△ 93,263
		管理経費	301,423	233,638	67,785		基本金組入額合計	△ 104,979	△ 232,300	127,321
徴収不能額等		0	0	0	当年度収支差額	54,613	20,555	34,058		
教育活動支出計		2,753,597	2,527,412	226,185	前年度繰越収支差額	△ 3,190,207	△ 3,589,941	399,734		
教育活動収支差額	75,051	183,447	△ 108,396	基本金取崩額	288,498	379,179	△ 90,681			
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	86,503	56,002	30,501	翌年度繰越収支差額	△ 2,847,096	△ 3,190,207	343,111	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	(参考)				
	事業活動支出の部	教育活動外収入計	86,503	56,002	30,501	事業活動収入計	2,923,133	2,780,942	142,191	
		借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計	2,763,541	2,528,087	235,454	
		その他の教育活動外支出	0	0	0					
教育活動外支出計	0	0	0							
教育活動外収支差額	86,503	56,002	30,501							
経常収支差額	161,554	239,449	△ 77,895							

資金収支計算書要約（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和4年度決算	令和3年度決算	増減	科目	令和4年度決算	令和3年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,046,725	2,000,425	46,300	人件費支出	1,367,089	1,281,448	85,641
手数料収入	34,125	33,195	930	教育研究経費支出	674,584	600,806	73,778
寄付金収入	26,260	32,456	△ 6,196	管理経費支出	265,831	193,630	72,201
補助金収入	431,802	409,748	22,054	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	100,000	△ 100,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	224,421	194,213	30,208	施設関係支出	198,977	103,176	95,801
受取利息・配当金収入	86,503	56,002	30,501	設備関係支出	141,749	126,003	15,746
雑収入	68,957	48,327	20,630	資産運用支出	496,000	495,000	1,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	225,328	474,500	△ 249,172
前受金収入	374,980	353,108	21,872				
その他の収入	141,160	176,167	△ 35,007				
資金収入調整勘定	△ 449,450	△ 447,823	△ 1,627	資金支出調整勘定	△ 296,932	△ 226,188	△ 70,744
前年度繰越支払資金	1,725,029	1,817,586	△ 92,557	翌年度繰越支払資金	1,637,886	1,725,029	△ 87,143
収入の部合計	4,710,512	4,773,404	△ 62,892	支出の部合計	4,710,512	4,773,404	△ 62,892

貸借対照表要約（令和5年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部				負債の部				純資産の部			
科目	令和4年度末	令和3年度末	増減	科目	令和4年度末	令和3年度末	増減	科目	令和4年度末	令和3年度末	増減
固定資産	9,197,774	8,781,577	416,197	固定負債	227,424	196,256	31,168	基本金	12,813,221	12,996,740	△ 183,519
有形固定資産	6,720,441	6,790,593	△ 70,152	預り保証金	150	150	0	第1号基本金	12,640,221	12,823,740	△ 183,519
土地	1,504,743	1,504,743	0	退職給与引当金	227,274	196,106	31,168	第4号基本金	173,000	173,000	0
建物	4,065,755	4,156,522	△ 90,767	流動負債	741,285	641,866	99,419	繰越収支差額	△ 2,847,096	△ 3,190,207	343,111
その他の有形固定資産	1,149,943	1,129,328	20,615	未払金	292,196	222,496	69,700	翌年度繰越収支差額	△ 2,847,096	△ 3,190,207	343,111
特定資産	170,000	170,000	0	前受金	374,980	353,108	21,872	純資産の部合計	9,966,125	9,806,533	159,592
その他の固定資産	2,307,333	1,820,984	486,349	預り金	74,109	66,262	7,847	負債及び純資産の部合計	10,934,834	10,644,655	290,179
流動資産	1,737,060	1,863,078	△ 126,018	負債の部合計	968,709	838,122	130,587				
現金預金	1,637,886	1,725,029	△ 87,143								
その他の流動資産	99,174	138,049	△ 38,875								
資産の部合計	10,934,834	10,644,655	290,179								

## 令和5年度予算報告

学校法人銀杏学園の令和5年度予算は、令和5年5月31日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

### ①事業活動収支予算書

令和5年度の経常収支差額は±0百万円と収支均衡が保たれていますが、前年比162百万円減少します。原因としては、前年度のPCR検査受託収入や熊本県新型コロナ補助金等の一過性の収入の終息です。支出面でも、教育研究活動の本格的再開による教育研究費増加が影響しています。

### ②資金収支予算書

令和5年度の翌年度繰越支払資金は1,700百万円となり、前年比62百万円増加します。これは有価証券投資や設備投資の抑制を計画していることが影響しています。

事業活動収支予算書要約（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円）

科目		令和5年度予算	令和4年度決算	増減	科目		令和5年度予算	令和4年度決算	増減		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,110,000	2,046,725	63,275	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	34,000	34,125	△125			その他の特別収入	0	7,982	△7,982
		寄付金	26,000	26,308	△308			特別収入計	0	7,982	△7,982
		経常費等補助金	395,000	428,112	△33,112		支出の部	資産処分差額	0	9,944	△9,944
		付随事業収入	63,000	224,421	△161,421			その他の特別支出	0	0	0
		雑収入	45,000	68,957	△23,957			特別支出計	0	9,944	△9,944
		教育活動収入計	2,673,000	2,828,648	△155,648		特別収支差額	0	△1,962	1,962	
	事業活動支出の部	人件費	1,398,547	1,398,257	290	〔予備費〕		30,000		30,000	
		教育研究経費	1,107,546	1,053,917	53,629	基本金組入前当年度収支差額	△30,000	159,592	△189,592		
		管理経費	256,907	301,423	△44,516	基本金組入額合計	△257,523	△104,979	△152,544		
		徴収不能額等	0	0	0	当年度収支差額	△287,523	54,613	△342,136		
		教育活動支出計	2,763,000	2,753,597	9,403	前年度繰越収支差額	△2,847,096	△3,190,207	343,111		
		教育活動収支差額	△90,000	75,051	△165,051	基本金取崩額	0	288,498	△288,498		
						翌年度繰越収支差額	△3,134,619	△2,847,096	△287,523		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	90,000	86,503	3,497	(参考)					
		その他の教育活動外収入	0	0	0	事業活動収入計	2,763,000	2,923,133	△160,133		
		教育活動外収入計	90,000	86,503	3,497	事業活動支出計	2,793,000	2,763,541	29,459		
	支出の部	借入金等利息	0	0	0						
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	0	0	0						
		教育活動外収支差額	90,000	86,503	3,497						
経常収支差額	0	161,554	△161,554								

資金収支予算書要約（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和5年度予算	令和4年度決算	増減	科目	令和5年度予算	令和4年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,110,000	2,046,725	63,275	人件費支出	1,398,547	1,367,089	31,458
手数料収入	34,000	34,125	△125	教育研究経費支出	719,546	674,584	44,962
寄付金収入	26,000	26,260	△260	管理経費支出	219,907	265,831	△45,924
補助金収入	395,000	431,802	△36,802	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	63,000	224,421	△161,421	施設関係支出	49,218	198,977	△149,759
受取利息・配当金収入	90,000	86,503	3,497	設備関係支出	208,305	141,749	66,556
雑収入	45,000	68,957	△23,957	資産運用支出	0	496,000	△496,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	300,043	225,328	74,715
前受金収入	375,000	374,980	20				
その他の収入	96,341	141,160	△44,819	〔予備費〕	30,000		30,000
資金収入調整勘定	△472,227	△449,450	△22,777	資金支出調整勘定	△225,566	△296,932	71,366
前年度繰越支払資金	1,637,886	1,725,029	△87,143	翌年度繰越支払資金	1,700,000	1,637,886	62,114
収入の部合計	4,400,000	4,710,512	△310,512	支出の部合計	4,400,000	4,710,512	△310,512

### 目次

#### I 法人の概要

- 1 建学の精神、基本理念、ミッション及びタグライン
- 2 沿革
- 3 役員・評議員等
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 入学定員及び学生数
- 6 教職員の概要
- 7 卒業生の概要

#### II 事業の概要

##### 1 主な事業の内容

- (1) 全体概要
- (2) 教育に関すること
- (3) 研究に関すること
- (4) 経営に関すること
- (5) 業務運営・その他に関すること

##### 2 学生の動向

- (1) 入学試験における志願等の状況
- (2) 国家試験の合格状況
- (3) 卒業生の進路状況

#### III 財務の概要

- 1 事業活動収支計算書(過去8年分)
- 2 貸借対照表(過去8年分)
- 3 財務比率(過去5年分)

ここでは、II 事業の概要の「1 主な事業の内容」を紹介します。

#### II 事業の概要

##### 1 主な事業の内容

###### (1) 全体概要

2022(令和4)年度も、前年度までに続き新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中で大学の運営が求められました。学内での感染者は8月の98人をピークにこれまでにない勢いで拡大しましたが、学内の感染症に関する専門家を含む新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループによる提言に基づき、感染防止対策を講じることで、大学の教育・研究活動を止めることなく、“何ができるか”という観点で知恵を絞りながら対応していきました。その結果、対面によるオープンキャンパスの規模拡大や3年ぶりの学園祭「杏祭」の実施、さらには小中学生を対象に親子で人間の体の仕組みや病気、医療について学んでもらう「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」を対面で開催する等、様々な取り組みに繋げることができました。

また、今年度は、中長期計画(2019年度～2030年度)のうち第1期中期計画の最終年度に当たるため、第2期の中期計画策定を行いました。今年度から新たに着任した一般企業の執行役員経験者である理事長特別補佐及び教育行政経験者である特命副学長のサポートを受けながら各部門のヒアリングを行い、現状を分析したうえで、「教育」「研究」「経営」の3つの柱による中期目標と計画の策定を行いました。この内容については、理事長と学長から全教職員に対して方針の説明を行い、中期計画の内容を各部門の年度計画につなげるよう周知しました。

さらに、外部機関との様々な連携も進みました。4月に設置された「健康・スポーツ教育研究センター」では、健康・スポーツ医科学の研究・実践の拠点として社会的要請の高い調査、研究及び教育を積極的に推進しており、株式会社明治との協定締結を皮切りに、株式会社鶴屋(女子バスケットボール)、オムロンピンディーズ(女子ハンドボール)、阿蘇市・阿蘇中央高校、熊本県スポーツ連絡協議会など幅広く連携協定を締結し、センター事業の基盤を固めることができました。

9月には、熊本県内のスーパーサイエンスハイスクール指定の県立高校を中心とした8校で構成されている熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)と、理数教育の発展と優秀な人材育成を目的とした高大連携・高大接続に関する協定を結び、その実践の1例目として、第二高校の生徒に対し本学リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の教員が研究支援を行いました。

学内のガバナンス体制についても改革を行いました。学長のビジョンや大学の経営方針を共有して適切な役割を果たすことができるよう、学部長及び大学院研究科長については学長が指名していましたが、学科長や専攻長等についてはこれまで選挙を実施してきました。しかし、これらの長に対しても、教学マネジメントを担い、大学教育の改革サイクルの確立を図るチームの構成員としての役割が求められることから、学長の指名制とすることとしました。このことにより、学長のリーダーシップがより発揮しやすい体制を整えることができました。

###### (2) 教育に関すること

- 1) アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)に適合した入学者確保
  - 【目標1】学科専攻ごとの目標入学者数の確保(達成率100%)
  - 【目標2】各学科専攻における志願者数の増加(対前年度比120%以上)
    - 医学検査学科、看護学科、PT専攻では達成。リハビリテーション学科生活機能療法学専攻、言語聴覚学専攻では目標に達しなかった。全体では目標数408名(定員の120%)に対し、401名(同118%)だった。【目標1達成率98%】
    - リハビリテーション学科理学療法学専攻、言語聴覚学専攻では志願者数が増加したが、全体としては、前年度比98%で微減だった。【目標2達成率82%】
    - 入学者数がほぼ目標に達成したのは種々の広報戦略・活動及び連携協定など特色ある取り組みの成果と思われる。この活動をさらに継続することにより志願者数につなげる必要がある。

###### 2) エンロールメント・マネジメントの強化

- 【目標】入学から卒業までのIRデータの蓄積と活用
  - アセスメントプランに基づき、以下のとおり実施【目標達成率100%】
    - ① 学修行動調査(1~4年次)では、学修意識の低下、つまずき、不安感などフォローが必要と思われる情報をSG担任と共有した。
    - ② 卒業・修了時アンケート結果は次年度の学生指導や国試対策などに活用されている。
    - ③ 大学生基礎力レポートI・IIは、個人レポート印刷物をSG担任及び学生に配付し2者面談で活用した。
    - ④ 授業改善アンケート(前期:回収率63.9%、後期:回収率50.7%)の結果を踏まえて、教員は授業ごとの改善策を公開した。
    - ⑤ 平成30年度入学生について、留年生・退学者・国家試験不合格者の洗い出しを行った。各学科・専攻から原因分析結果を報告すると共に、選抜区分による特徴の有無を分析した。選抜区分による問題点は指摘されなかった。

###### 3) 新コースの体制整備

- 【目標】理学療法学専攻のスポーツリハビリテーションコース(令和5年度の2年次生から開始)に向けた体制整備(実行率100%)
  - 科目の整備、選考基準の決定と実施、実習施設の確保をおこなった。【目標達成率100%】
  - 実習施設の確保については今後2年間でさらに40名分を確保する必要がある。

###### 4) 新型コロナウイルスの感染防止に配慮した教育体制の整備

- 【目標1】遠隔授業の整備と効果的運用および三密を避けた教育環境の整備
- 【目標2】学外実習配置前の学生を対象としたPCR検査実施
  - 遠隔授業のため引き続きmanabaを契約。学内WiFi環境の整備を順次実施した。遠隔と新たなL講義室(1301L)などの活用により収容定員の75%程度の運用を実現した。【目標1達成率100%】



- 学外実習前の学生のPCR検査に関しては、計画的にほぼ100%実施できた。【目標2達成率100%】

### (3) 研究に関すること

#### 1) 若手研究者の研究促進

【目標1】学位取得の推進、学内教員との共同研究の実施、外部資金の獲得(対前年度100%以上)

【目標2】大学院生を含む若手研究者の研究環境の整備

- 若手研究者を対象とした科研費申請の支援体制(メンター制度)を昨年度より導入しており、3件の支援依頼に対してシニア研究教員が指導にあたり、うち1件は科研費獲得につながり、その成果が得られた。
- 令和4年度申請分の外部資金(科研費)として新規申請30件に対して採択が10件(採択率33.3%)であった。昨年度の新規採択が7件であり、対前年度143%と目標を達成した。【目標1達成率100%】
- 共同研究推進のために毎年実施している学内研究者紹介(サイエンス・カフェ)を5回、学術講演会を4回実施した。
- 研究環境の整備として、学内共同利用の高度分析機器(電子顕微鏡、次世代シーケンサー等)を新たに設置した。
- 学内研究費(P&P)の募集内容や運用方法を全面的に見直し、効果的な研究者支援が可能な内容に改めることで資金面での研究環境を整えた。その結果、P&P応募数が前年度から増加した(新規10件、継続12件、研修費3件)。【目標2達成率100%】

#### 2) 動物実験施設に係る環境整備

【目標】動物実験施設の改修(対計画進捗率100%)

- 動物実験施設の改修は予定通り年度内に完成し、新たな運用が開始された。【目標達成率100%】

### (4) 経営に関すること

#### 1) 第I期中期計画の評価と第II期(R5～R8年度)中期計画の策定

【目標】第I期中期計画の達成度評価の実施/実効性のある第II期中期計画の策定(令和4年度中)

- 第II期中期計画を作成するにあたり、最初に第I期中期計画の振り返り・評価を「教育」「研究」「経営」「業務運営・その他」に分けて実施した。その際に抽出した積み残しや課題を第II期中期計画の策定に盛り込むこととした。
- 策定の過程では、学内外の部門長や施設長へのヒアリング調査の実施や、種々の分析結果を大学管理職(教職員)へ説明会をとおして共有した。また、策定後は浸透を図るため理事長と学長による説明会を実施するなど、近年では例のない中期計画の策定を行った。
- 中期計画の策定を受けて、部門別の年次計画書の仕様を中期計画との明確な紐づけができるように変更し、中期計画の実行と管理が行えるように整備した。【目標達成率100%】

#### 2) 広報力の強化によるコミュニケーションの活性化とブランド力の向上

【目標】〈学内広報〉コミュニケーションの活性化/〈学外広報〉ブランド力の向上(対計画進捗率100%)

- 広報業務を担当している入試・広報課の増員を図り、同時に別部署が担当していた週刊ニュースレターや学園誌ぎんきょうの発行などの広報業務をすべて入試・広報課に一元化した。そのことで週刊ニュースレター担当者自身がステークホルダーの生の声を聞く対外的な広報の実務者となったことから、更に質の高いニュースを学内に配信することが出来ている。令和4年度の週刊ニュースレターは49回発行した。【目標達成率100%】
- 令和4年度は学内理事をリーダーとした広報プロジェクトを立ち上げ、より経営方針に沿った広報展開を実施している。その中の一つとして、新設した健康・スポーツ教育研究センターを中心とした、数多くの連携協定締結やセンターの活動状況を、特別番組のオンエアやホームページ上での公開などでしっかりと対外的に広報し、本学のブランド力の向上を図ることができた。【目標達成率100%】

#### 3) 継続的な競争優位性を確立するためのマーケティング戦略の実行

【目標】競合他大学の動向を踏まえた競争戦略の策定と展開(対計画進捗率100%)

- 理学療法学専攻の増員とスポーツリハビリテーションコース設置を機に、西日本の保健医療系私立大学では初めて健康・スポーツ教育研究センターを新設し、このセンターにも所属する教員を新規採用して充実を図った。また、センターの中心的な活動であるスポーツヘルスサイエンス事業も活発化していることに加え、食品関連大手の(株)明治など令和4年度は5件の連携協定を締結し、地域のヘルスサイエンスを先導する取り組みをスタートさせている。連携協定の打診は今でも続いており、地域社会のニーズの高さを感じている。【目標達成率100%】
- なお、協定締結だけで終わらないよう、協定相手毎に担当教員を配置してそれぞれが具体的な活動に取り組んでいる。

#### 4) 財務分析による適切な組織別収支把握とそれに基づく財政の適正化

【目標】学園全体および組織単位での収支予算の達成(経常収支差額の予算達成率100%)

- 第II期中期計画の策定の際に、財務分析を行い組織別で収支把握を行った。教職員管理職にもその財務分析について、自部署の現状把握とそれに対する部署内での財政の適正化の意識付けを目的に説明会を実施し共有した。説明を受けて実際に具体的な検討に着手した学科・部署も出てきている。また、予算策定時にも各部署からしっかりしたヒアリング、意見交換を行い(前年の経理課長+経営企画室長から体制の強化を図り、理事長特別補佐、特命副学長、学部長、事務局長も新たに加えたヒアリング体制で実施)、役員のみならず皆で財政の適正化を進める風土が出来つつある。【目標達成率100%】
- 組織経常収支差額±ゼロの収支予算に対しては、今年度もPCR検査収入もあり、経常収支差額は1.6億円程度的大幅な黒字を確保できる見込み。【目標達成率100%】

### (5) 業務運営・その他に関すること

#### 1) 教学マネジメントおよび大学の内部質保証体制の機能性維持

【目標1】アセスメントプランに基づく自己点検・評価の実行と改善(実行率100%)

【目標2】学長の補佐体制の構築(役割の明確化100%)

- 教学IRによる分析と評価をアセスメントプランに従って適切に実行し、自己点検・評価に繋げた。また、部門ごとに改善策の検討を行い実行しているが、その実施状況についての把握が不十分であった。【目標1達成率80%】
- 副学長に加え、教育行政経験のある特命副学長を配置することで、学長の補佐体制を充実させた。【目標2達成率80%】

#### 2) 職員の適正配置に向けた業務の可視化と能力開発

【目標1】事務部門業務分類のナンバリング等による業務の可視化(実行率100%)

【目標2】体系的なSD構築の推進(全学的な方針策定、現存のSD研修の体系化)

- 各課の業務内容の洗い出しや担当者の可視化を行い、事務分掌規程と連動した形で業務の分類を行った。【目標1達成率80%】
- 次期中期計画の中で体系的なSDの構築を実現するために、まずは事務職員全員を対象とした研修に対するニーズ調査を実施した。【目標2達成率50%】

#### 3) 新型コロナウイルス対策に関連した継続的な地域貢献

【目標】学内PCR検査体制の充実と外部検体の受託検査(感染状況に応じた対応)

- 外部検体の受託検査については、熊本県内のコロナ感染拡大の状況を受け、熊本市医師会からの委託をはじめとして年間で37,214件を受託した。【目標達成率100%】

## 令和5年度事業計画

### 学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 令和5年度の重点的な取組み

#### 教育

##### 【令和5年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)に適した入学者確保【目標5】
  - ⇒学科専攻ごとの目標入学者数の確保(達成率100%)
  - ⇒各学科専攻における志願者数の増加(対前年度比120%以上)
- 質の高い医療技術者の養成【目標1】
  - ⇒適切な臨地実習先の確保と連携強化による実習教育の充実
  - ⇒各種連携事業を活用した実習等による実践力強化
  - ⇒ダブルライセンスなどプラスアルファの資格・技能取得
- 各学科内での効率的な教育体制の構築【目標4】
  - ⇒若手教員の育成
  - ⇒効率的な組織に改善するため教員組織の再編・統合の検討
- 高水準の国試合格率と就職率の堅持【目標6】
  - ⇒90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成
  - ⇒就職率100%の堅持

##### 【中期計画の期間目標】★印は令和5年度の重点項目

- ★1) 近未来を想定したリーディング大学に相応しい教育内容の充実
- 2) 社会の要請に応える教育の質保証
- 3) 主体性を尊重した学生支援
- ★4) 効果的・効率的な教育の実施体制と環境整備
- ★5) 優秀で意欲ある入学生の確保に向けた入試制度等の再構築
- ★6) 高水準の国試合格率と就職率の堅持

#### 研究

##### 【令和5年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- 学内共同研究の推進【目標1】 ※P&P:学内研究費(教育研究プログラム・拠点研究プロジェクト)
  - ⇒学内共同研究の実態とニーズの把握(アンケート実施など対計画進捗率100%)
  - ⇒研究費補助(P&P※Aタイプや成果発表補助)の積極的活用の促進
  - ⇒共同実験施設(動物実験施設等)や共同実験機器(電子顕微鏡、次世代シーケンサー、フローサイトメーター等)の積極的活用による研究支援の強化(運用ルール策定など対計画進捗率100%)
- 研究者(特に若手)の人材育成推進と研究環境の整備【目標3】
  - ⇒研究費獲得や研究の進め方に関するコンサルテーション制度の積極的運用(対前年度実績100%)
  - ⇒無菌室(P3実験室)の整備(対計画進捗率100%)
  - ⇒柔軟な学内研究費運用(年度を跨いだ予算の繰上げや繰越し等)による適切な研究遂行のための支援(希望者実施率100%)

##### 【中期計画の期間目標】★印は令和5年度の重点項目

- ★1) 本学の特徴を活かした学内研究の推進
- ★3) 学内研究支援体制の整備
- 5) 研究活動を通じた社会貢献の推進
- 2) 学外研究機関等との共同研究の推進
- 4) 責任ある研究活動の推進

#### 経営

##### 【令和5年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- 財務基盤の強化【目標1】
  - ⇒収益事業の検討や寄附金・補助金獲得の強化策の実施
- 管理運営・ガバナンスの強化【目標2】
  - ⇒内部統制システムの充実/経営の効率性の確保(令和5年度中)
- 教職員組織の充実【目標3】
  - ⇒更なる充実した研修制度の構築/評価制度見直し等のモチベーション向上策など(対計画進捗率100%)
- 志願者等の詳細な分析や情報収集による、戦略的な広報活動の展開とブランド力の向上
  - ⇒様々な媒体の活用と対面広報の強化(対計画進捗率100%)【目標4】
  - ⇒長期的な視点で小中学生などを対象とした魅力発信策を図る(対計画進捗率100%)
- 健康寿命延伸など地域の課題に対して、産官学連携による先導した取り組みの推進【目標5】
  - ⇒対外窓口の設置
  - ⇒健康・スポーツ教育研究センターをはじめとした推進体制の充実

##### 【中期計画の期間目標】★印は令和5年度の重点項目

- ★1) 財務基盤の強化
- ★3) 教職員組織の充実
- ★5) 地域の保健(健康長寿)を先導する社会活動の推進
- ★2) 管理運営・ガバナンスの強化
- ★4) 戦略的な広報活動の展開

## オンライン留学生のレポート

# 国際交流

## International exchange

オンライン留学の  
よかったことは？



リハビリテーション学科  
生活機能療法専攻 2年  
月精 千春さん

私はネイティブの人と話した経験が少ないので、始めは緊張していました。クラスはベトナムや韓国などいろいろな国から幅広い年齢層の方々が参加しており、英語でのコミュニケーションを通して繋がりが持てることができました。最初は話す内容が理解できませんでしたが、毎日の積み重ねの中で理解できるようになり、楽しくなりました。言葉だけではなく、ジェスチャーを用いて伝えることが、自分を表現することが得意でない私にとっては良い体験になりました。これからは、現地での留学プログラムに参加して実際に対面で話してみたいです。もっと現地に行きたい気持ちが高まりました。

オンライン留学の  
よかったことは？

リハビリテーション学科  
理学療法専攻 2年  
馬場 心太郎さん

オンライン留学を受けてよかったことは積極的に海外の人に喋ることができたことと、英語力が向上したこと。私たち日本人学生以外にも韓国人の社会人やベトナムの主婦の方などいろいろな世代の方々と一緒に勉強ができ、普段の生活では感じることでない刺激を感じることができました。課題が出ましたが、休みの日に仕上げ自分の時間をとる事が出来ました。先生も生徒一人ひとりに真摯に接しており、緊張をほぐしてもらいました。オンライン留学で大切なことは積極性です。自分からコミュニケーションをとる事で良好な関係を築くことができます。頑張ってください！

## Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library.html>

○2022年度末所蔵は、図書8万冊、電子ブック930冊、雑誌980誌、電子ジャーナル1,760誌、映像データベース2種、その他データベース6種ほか。遠隔授業等学外から活用可能な電子資料の充実を図りました。また、対面授業の再開に伴い、入館者数は前年度より4割増、図書の貸出も2倍増となり、認証方法の見直しによる電子資料の遠隔からの利用も3倍増となりました。

○国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを2023年5月開始しました。国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を館内で利用できるサービスです。(学内者限定)



○2023年3月飯山準一館長ご退任、4月古閑陽一館長が就任されました。飯山館長は、熊本地震やコロナ禍でも学生に寄り添った学修支援、研究促進のための図書館活動に8年間、ご尽力されました。今後は、古閑館長のもと、学修研究支援活動を行ってまいります。



### 図書館蔵書の中から



#### 一本学教員執筆図書のご紹介

『職業倫理を考える  
保健・医療・介護・福祉系専門職の職業倫理を学ぶ人のために』  
山野克明編著 坂本淑江、佐々木千穂ほか著  
理工図書 2023.4発行 配架場所：新着コーナー

○2023年6月より、平日21時までの夜間開館を再開しました。コロナ禍では19時の短縮開館でした。学修、研究にご利用ください。(夜間利用は、学内者限定)



## 基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

## 教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

## 将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

**Vision 1**  
社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1  
教育改革の推進と学生ファーストの学修支援

ビジョン 1-2  
独創的な研究の推進と大学院の充実

**Vision 2**  
地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1  
教育・研究組織の充実

ビジョン 2-2  
魅力的な教育・研究環境の充実

**Vision 3**  
10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

ビジョン 3-1  
学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化

ビジョン 3-2  
教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

編集後記

学園誌ぎんきょうは1年に2回発行されます。前回の号では学生の皆さんの様子を多くお伝えした内容でしたが、今回は学園全体の動きをお伝えしております。日々、新しいことがおこっている熊本大の様子をお楽しみください。

